

**コマツ**  
**2018年度 第2四半期(中間)**  
**決算説明会**

**2018年10月29日(月)**

**コマツ出席者**

**代表取締役社長(兼)CEO**

**執行役員CFO**

**執行役員経営管理部長**

**大橋 徹二**

**堀越 健**

**今吉 琢也**

## I. 2018年度 第2四半期(中間)決算の概要 <P3-P14>

- P4-6 : 2018年度第2四半期(7-9月)の概況
- P7-8 : 2018年度上期(4-9月)の概況
- P9-11 : <建設機械・車両> 2018年度上期(4-9月)の状況、KMC\*の概況
- P12 : <リテールファイナンス> 2018年度上期(4-9月)の状況
- P13 : <産業機械他> 2018年度上期(4-9月)の状況
- P14 : 連結貸借対照表

## II. 2018年度の見通し <P15-P31>

- P16-17 : 2018年度の見通し(概況・セグメント売上高・利益)
- P18-19 : <建設機械・車両> 売上高とセグメント利益の見通し
- P20 : <建設機械・車両> KMC\*の業績見通し
- P21 : <リテールファイナンス> 資産と収益の見通し
- P22 : <産機事業他> 売上高とセグメント利益の見通し
- P23-28 : <建設機械・車両> 主要7建機需要推移と見通し(全体及び地域別)
- P29-30 : <建設機械・車両> 鉱山機械の需要・売上高の見通し
- P31 : <建設機械・車両> 部品の売上高の見通し

## 参考資料 <P32-P40>

- P33-37 : 四半期毎の状況
- P38-40 : BBレシオ〔受注/売上指数(6ヶ月)〕

\* KMCは、Komatsu Mining Corp. (旧ジョイ・グローバル社) の略称。

# I. 2018年度 第2四半期（中間）決算の概要

## 損益計算書の組替表示について

2018年度から米国の新年金会計基準(※)を適用したことにより、損益計算書において、勤務費用以外の退職給付費用を「その他の収益(費用)」に計上しています(従来はセグメント利益に計上)。これに伴い2017年度の数値も遡及して組替表示しています。内容は下表の通りです。

※会計基準アップデート2017-07「期間年金費用及び期間退職後給付費用の表示の改善」

### 新年金会計基準適用による組替え

(金額単位：億円)		2017年 4-6月	2017年 7-9月	2017年 10-12月	2018年 1-3月	2017年度 年間
	従来コマツ	1	1	1	1	4
	KMC	▲8	▲8	▲8	▲9	▲33
	建設機械・車両	▲7	▲7	▲7	▲8	▲29
	リテールファイナンス	0	0	0	0	0
	産業機械他	0	▲0	0	▲1	▲1
<b>セグメント利益</b>		<b>▲7</b>	<b>▲7</b>	<b>▲7</b>	<b>▲9</b>	<b>▲30</b>
<b>営業利益</b>		<b>▲7</b>	<b>▲7</b>	<b>▲7</b>	<b>▲9</b>	<b>▲30</b>
<b>その他収益(▲費用)</b>		<b>7</b>	<b>7</b>	<b>7</b>	<b>9</b>	<b>30</b>
<b>税引前純利益</b>		<b>-</b>	<b>-</b>	<b>-</b>	<b>-</b>	<b>-</b>

- ・ 連結売上高は前年同期比+12.4%増収の6,719億円。
- ・ 営業利益は前年同期比+75.3%増益の1,042億円。売上高営業利益率は同+5.5ポイント増の15.5%。
- ・ 純利益は前年同期比▲4.5%減益の624億円。

2017年度の利益は組替表示しています(詳細は3ページを参照)。

金額単位：億円	2017年7-9月			2018年7-9月			前年同期比	
	¥110.9/USD ¥129.9/EUR ¥16.6/RMB	従来コマツ *1	KMC	¥111.2/USD ¥129.6/EUR ¥16.4/RMB	従来コマツ *1	KMC	増減	増減率
連結売上高	5,977	5,208	769	6,719	5,783	935	+742	+12.4%
セグメント利益(▲損失)	599	677	*2 ▲77	1,032	892	*2 139	+432	+72.1%
その他の営業収益(▲費用)	▲5	▲4	▲0	10	9	0	+15	-
営業利益(▲損失)	594	673	*2 ▲78	1,042	902	*2 140	+447	+75.3%
売上高営業利益率(▲損失率)	10.0%	12.9%	▲10.2%	15.5%	15.6%	15.0%	+5.5ポイント	-
その他の収益(▲費用)	365			▲46			▲412	-
税引前純利益	960			995			+35	+3.7%
当社株主に帰属する当期純利益	653			624			▲29	▲4.5%

※ PPAはPurchase Price Allocation(パーチェス・プライス・アロケーション)の略  
資産・負債を公正価値評価/配分する手続き

	2017年7-9月	2018年7-9月
PPAによる償却費 ※	▲163億円	▲17億円
統合費用ほか	▲9億円	▲7億円
合計	▲173億円	▲25億円

\*1 KMCを除いたコマツの従来ベースの業績を示している。

\*2 KMCのセグメント利益(損失)および営業利益(損失)には右記の一時費用の影響が含まれている。

- ・ 建設機械・車両部門の売上高は+10.4%増収の6,063億円。セグメント利益は+73.6%増益の956億円。セグメント利益率は+5.8ポイント改善し、15.8%。
- ・ リテールファイナンス部門の売上高は+10.9%増収の151億円。セグメント利益は+58.3%増益の40億円。
- ・ 産業機械他部門の売上高は+37.7%増収の557億円。セグメント利益は+84.7%増益の44億円。

2017年度の利益は組替表示しています(詳細は3ページを参照)。

□ : 利益(▲損失)率 ( ) : 外部顧客向け売上高

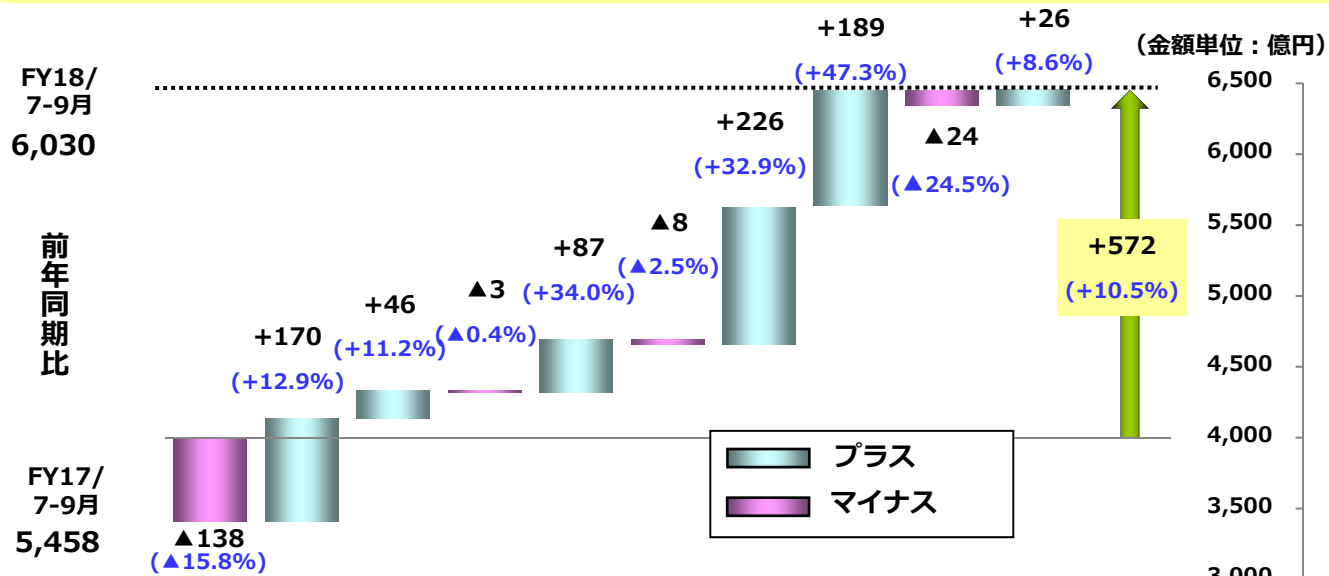
金額単位：億円	2017年7-9月			2018年7-9月			前年同期比	
		従来コマツ	KMC		従来コマツ	KMC	増減	増減率
売上高	5,977	5,208	769	6,719	5,783	935	+742	+12.4%
建設機械・車両	5,493 (5,458)	4,724 (4,688)	769 (769)	6,063 (6,030)	5,127 (5,094)	935 (935)	+570 (+572)	+10.4% (+10.5%)
リテールファイナンス	136 (116)	136 (116)	-	151 (136)	151 (136)	-	+14 (+19)	+10.9% (+16.7%)
産業機械他	405 (402)	405 (402)	-	557 (552)	557 (552)	-	+152 (+150)	+37.7% (+37.4%)
消去	▲58	▲58	-	▲53	▲53	-	+4	-
セグメント利益 (▲損失)	10.0% 599	13.0% 677	▲10.1% ▲77	15.4% 1,032	15.4% 892	14.9% 139	+432	+72.1%
建設機械・車両	10.0% 550	13.3% 628	▲10.1% ▲77	15.8% 956	15.9% 816	14.9% 139	+405	+73.6%
リテールファイナンス	18.9% 25	18.9% 25	-	26.9% 40	26.9% 40	-	+15	+58.3%
産業機械他	6.0% 24	6.0% 24	-	8.0% 44	8.0% 44	-	+20	+84.7%
消去または全社	▲1	▲1	-	▲9	▲9	-	▲8	-

### 各セグメントの状況：

- 建設機械・車両  
北米・アジア・オセアニアなどでの売上増加により増収。物量の増加に加え、KMCの一時費用が減少したことで全体として増益。
- リテールファイナンス  
主に北米での資産の増加などに伴い、増収増益。
- 産業機械他  
自動車業界向けの工作機械の販売が増加したことなどに伴い増収増益。

2018年度 第2四半期(7-9月)の地域別売上高 (外部顧客向け)

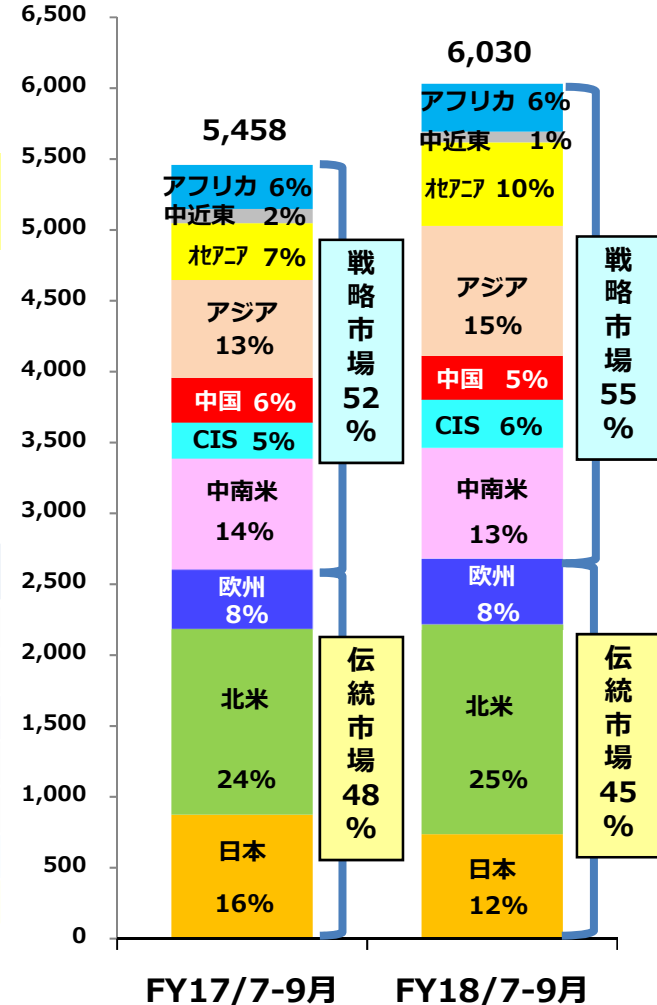
- ・ 外部顧客向け売上高は前年同期比+10.5%増収の6,030億円。
- ・ 日本が減少したものの、北米・アジア・オセアニアなどでの売上高が大きく伸長。
- ・ 戦略市場の比率は55%に上昇。



(億円)	日本	北米	欧州	中南米	CIS	中国	アジア	オセアニア	中近東	アフリカ	合計
従来コマツ	874	987	390	590	247	291	679	296	100	231	4,688
KMC	0	327	25	187	8	25	10	103	0	79	769
FY17/7-9月(A)	874	1,314	416	778	256	317	689	400	101	310	5,458
従来コマツ	735	1,059	429	574	319	279	894	477	74	250	5,094
KMC	0	426	33	200	24	29	22	112	1	86	935
FY18/7-9月(B)	735	1,485	462	774	343	309	916	589	76	337	6,030
増減 B-A	▲138	+170	+46	▲3	+87	▲8	+226	+189	▲24	+26	+572



※ 為替影響を除くベースでプラスの地域



- ・ 連結売上高は前年同期比+13.7%増収の1兆3,180億円。
- ・ 営業利益は前年同期比+80.2%増益の2,003億円。売上高営業利益率は同+5.6ポイント増の15.2%。
- ・ 純利益は前年同期比+23.2%増益の1,253億円。
- ・ 1株当たり中間配当金は、期初予想の48円から+3円増額の51円。

2017年度の利益は組替表示しています(詳細は3ページを参照)。

金額単位：億円	2017年上期			2018年上期			前年同期比	
	¥111.1/USD ¥125.8/EUR ¥16.4/RMB	従来コマツ *1	KMC	¥109.7/USD ¥129.9/EUR ¥16.8/RMB	従来コマツ *1	KMC	増減	増減率
連結売上高	11,589	10,080	1,509	13,180	11,371	1,808	+1,590	+13.7%
セグメント利益(▲損失)	1,122	1,337	*2 ▲215	1,991	1,742	*2 249	+868	+77.4%
その他の営業収益(▲費用)	▲10	▲10	▲0	11	11	0	+22	-
営業利益(▲損失)	1,111	1,327	*2 ▲215	2,003	1,753	*2 249	+891	+80.2%
売上高営業利益率(▲損失率)	9.6%	13.2%	▲14.3%	15.2%	15.4%	13.8%	+5.6ポイント	-
その他の収益(▲費用)	329			▲77			▲407	-
税引前純利益	1,441			1,925			+483	+33.6%
当社株主に帰属する当期純利益	1,017			1,253			+236	+23.2%
1株当たり配当金(円)	36円			51円			+15円	

※ PPAはPurchase Price Allocation(パーチェス・プライス・アロケーション)の略  
資産・負債を公正価値評価/配分する手続き

\*1 KMCを除いたコマツの従来ベースの業績を示している。

\*2 KMCのセグメント利益(損失)および営業利益(損失)には右記の一時費用の影響が含まれている。

(注) 本資料では第2四半期累計期間(4月~9月)を「上期」と表示します。

	2017年上期	2018年上期
PPAによる償却費 ※	▲330億円	▲45億円
統合費用ほか	▲36億円	▲9億円
合計	▲366億円	▲55億円

## 2018年度上期(4-9月)の各セグメント売上高と利益

- ・建設機械・車両部門の売上高は+12.8%増収の1兆2,005億円。セグメント利益は+79.7%増益の1,839億円。セグメント利益率は+5.7ポイント改善し、15.3%。
- ・リテールファイナンス部門の売上高は▲5.8%減収の294億円。セグメント利益は+62.2%増益の95億円。
- ・産業機械他部門の売上高は+22.6%増収の970億円。セグメント利益は+56.2%増益の75億円。

2017年度の利益は組替表示しています(詳細は3ページを参照)。

□ : 利益(▲損失)率 ( ) : 外部顧客向け売上高

金額単位：億円	2017年上期			2018年上期			前年同期比	
		従来コマツ	KMC		従来コマツ	KMC	増減	増減率
売上高	11,589	10,080	1,509	13,180	11,371	1,808	+1,590	+13.7%
建設機械・車両	10,644 (10,568)	9,134 (9,059)	1,509 (1,509)	12,005 (11,951)	10,197 (10,143)	1,808 (1,808)	+1,361 (+1,383)	+12.8% (+13.1%)
リテールファイナンス	312 (236)	312 (236)	-	294 (266)	294 (266)	-	▲18 (+29)	▲5.8% (+12.4%)
産業機械他	791 (784)	791 (784)	-	970 (962)	970 (962)	-	+178 (+177)	+22.6% (+22.7%)
消去	▲158	▲158	-	▲90	▲90	-	+68	-
セグメント利益 (▲損失)	9.7% 1,122	13.3% 1,337	▲14.3% ▲215	15.1% 1,991	15.3% 1,742	13.8% 249	+868	+77.4%
建設機械・車両	9.6% 1,023	13.6% 1,238	▲14.3% ▲215	15.3% 1,839	15.6% 1,590	13.8% 249	+815	+79.7%
リテールファイナンス	18.9% 59	18.9% 59	-	32.6% 95	32.6% 95	-	+36	+62.2%
産業機械他	6.1% 48	6.1% 48	-	7.7% 75	7.7% 75	-	+27	+56.2%
消去または全社	▲7	▲7	-	▲19	▲19	-	▲11	-

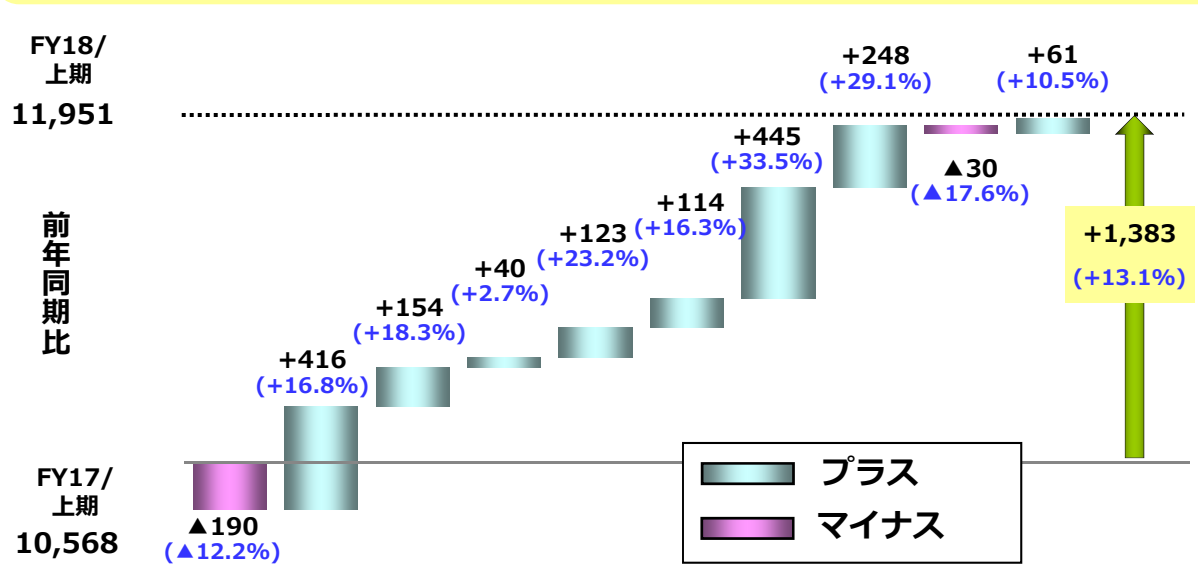
### 各セグメントの状況：

- 建設機械・車両  
北米・アジア・オセアニアなどでの売上増加により増収。物量の増加に加え、KMCの一時費用が減少したことで全体として増益。
- リテールファイナンス  
前年同期にチリにおいてリース契約の中途解約による中古車売上があったことにより減収。2016年度に中国で計上した貸倒引当金の戻り益により増益。
- 産業機械他  
自動車業界向けの工作機械の販売増加に加え、好調な半導体市場に伴うエキシマレーザー関連などの売上増加に伴い、増収増益。



### 2018年度上期(4-9月)の地域別売上高 (外部顧客向け)

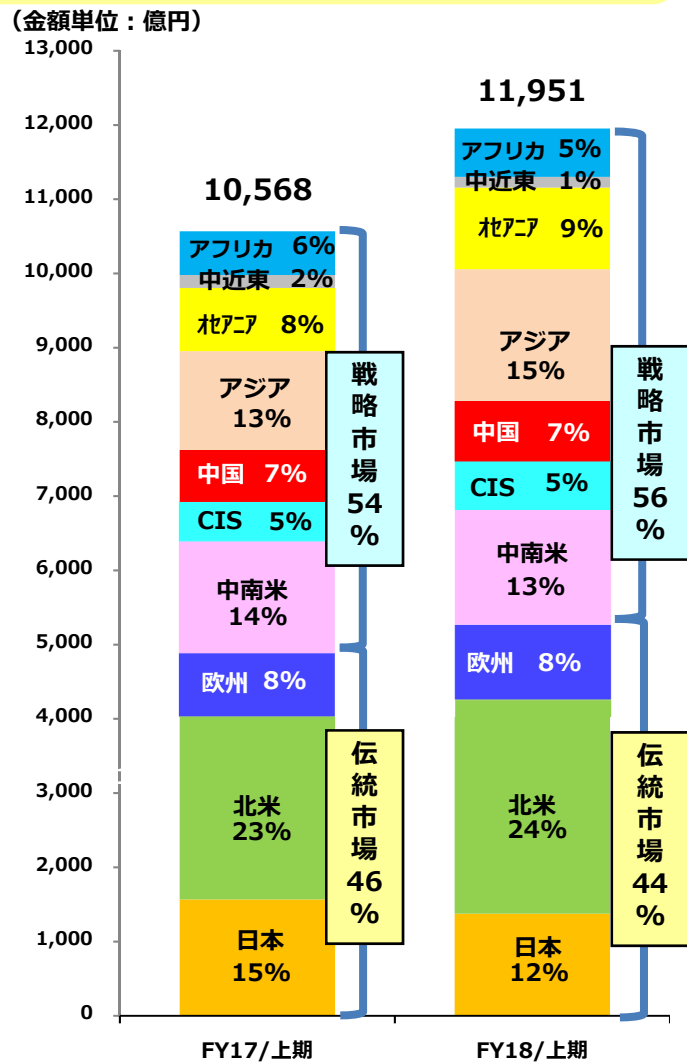
- 外部顧客向け売上高は前年同期比+13.1%増収の1兆1,951億円。
- 日本・中近東を除くすべての地域で売上高が増加。特に、北米・アジア・オセアニアなどの売上高が大きく伸長。
- 戦略市場の比率は56%に上昇。



(億円)	日本	北米	欧州	中南米	CIS	中国	アジア	オセアニア	中近東	アフリカ	合計
従来コマツ	1,565	1,834	775	1,157	515	635	1,313	645	174	441	9,059
KMC	0	640	70	343	17	64	17	206	0	147	1,509
FY17/上期(A)	1,565	2,475	846	1,500	532	700	1,330	851	175	589	10,568
従来コマツ	1,374	2,085	935	1,148	612	750	1,741	874	142	479	10,143
KMC	0	806	66	392	44	63	35	225	2	171	1,808
FY18/上期(B)	1,374	2,891	1,001	1,541	656	814	1,776	1,099	144	651	11,951
増減 B-A	▲190	+416	+154	+40	+123	+114	+445	+248	▲30	+61	+1,383



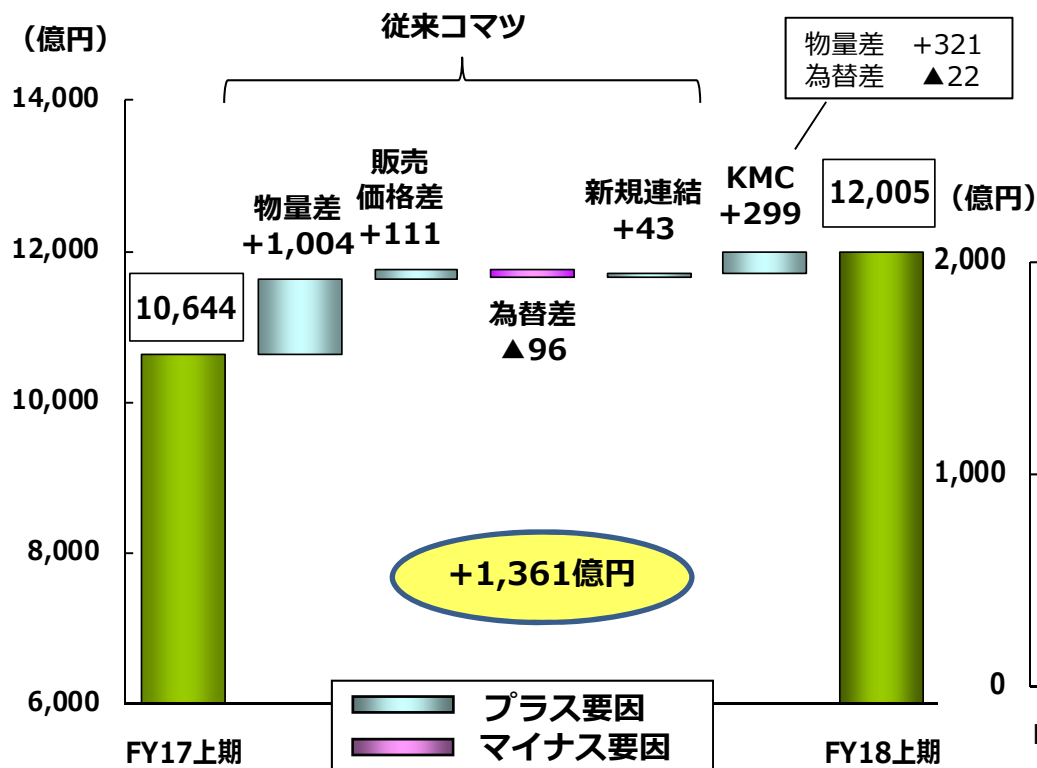
※ 為替影響を除くベースでプラスの地域



2018年度上期(4-9月)の売上高とセグメント利益の増減要因

- ・売上高は物量の増加に加え、販売価格差等により、前年同期比+1,361億円の増収。
- ・セグメント利益は物量の増加、KMCの一時費用の減少等により+815億円の増益。
- ・売上高セグメント利益率は前年同期比+5.7ポイント増の15.3%。

売上高  
FY2017/上期 vs. FY2018/上期

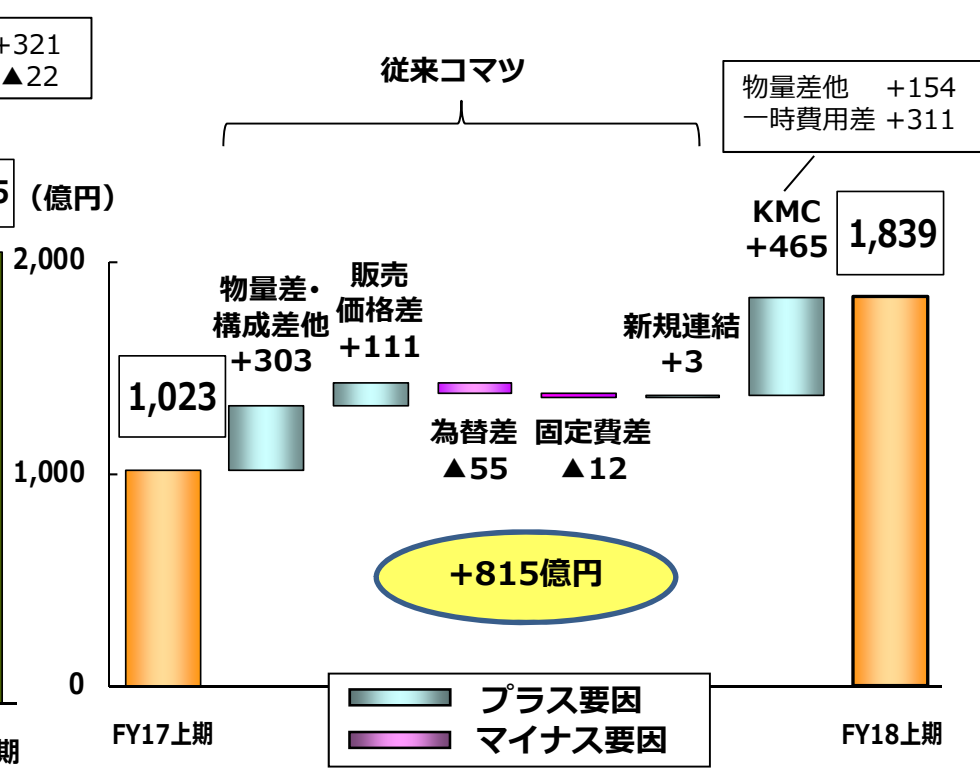


¥111.1/USD  
¥125.8/EUR  
¥16.4/RMB

¥109.7/USD  
¥129.9/EUR  
¥16.8/RMB

2017年度の利益は組替表示しています(詳細は3ページを参照)。

セグメント利益  
FY2017/上期 vs. FY2018/上期



9.6%

売上高セグメント利益率

15.3%

2018年度 上期(4-9月)KMCの概況

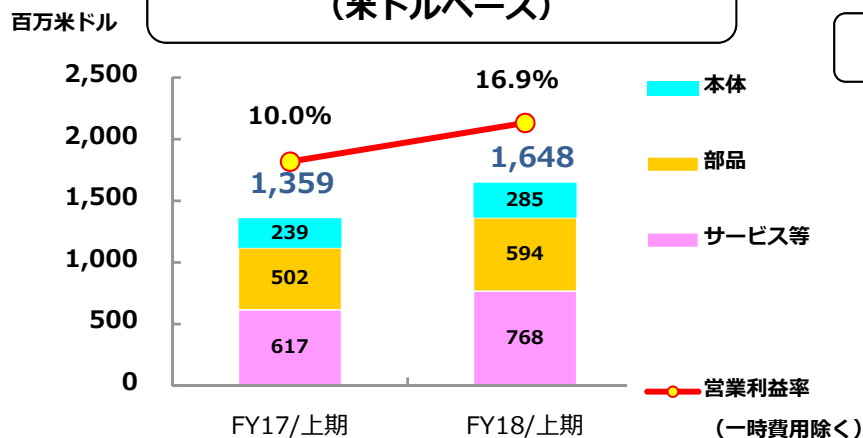
- ・売上高は、前年同期比+19.8%増の1,808億円。
- ・一時費用除く営業利益は305億円、一時費用▲55億円を含む営業利益は249億円。

2017年度の利益は組替表示しています(詳細は3ページを参照)。

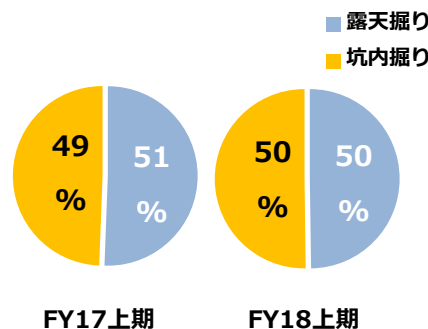
(金額単位：億円)	2017年上期		2018年上期		前年同期比	
	(¥111.1/USD)	(¥109.7/USD)	増減	増減率		
売上高	1,509	1,808	+299	+19.8%		
本体	266	315	+49	+18.7%		
部品	558	655	+97	+17.5%		
サービス等	685	836	+150	+22.0%		
営業利益 <一時費用除く>	10.0% 150	16.9% 305	+155	+103.4%		
一時費用 (マイナスで表記)	▲366	▲55	+311	-		
PPAによる償却費 ※1	※2 ▲330	▲45	+285	-		
統合費用ほか	▲36	▲9	+26	-		
営業利益 (▲損失) <一時費用含む>	▲14.3% ▲215	13.8% 249	+465	-		

※1：PPAは、Purchase Price Allocation(パーチェス・プライス・アロケーション)の略で資産・負債を公正価値評価/配分する手続き  
 ※2：うち棚卸資産に係るPPAによる償却費 ▲258億円

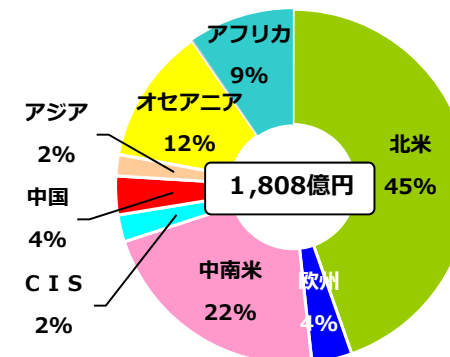
四半期別売上高・営業利益率の推移  
(米ドルベース)



セグメント別売上高

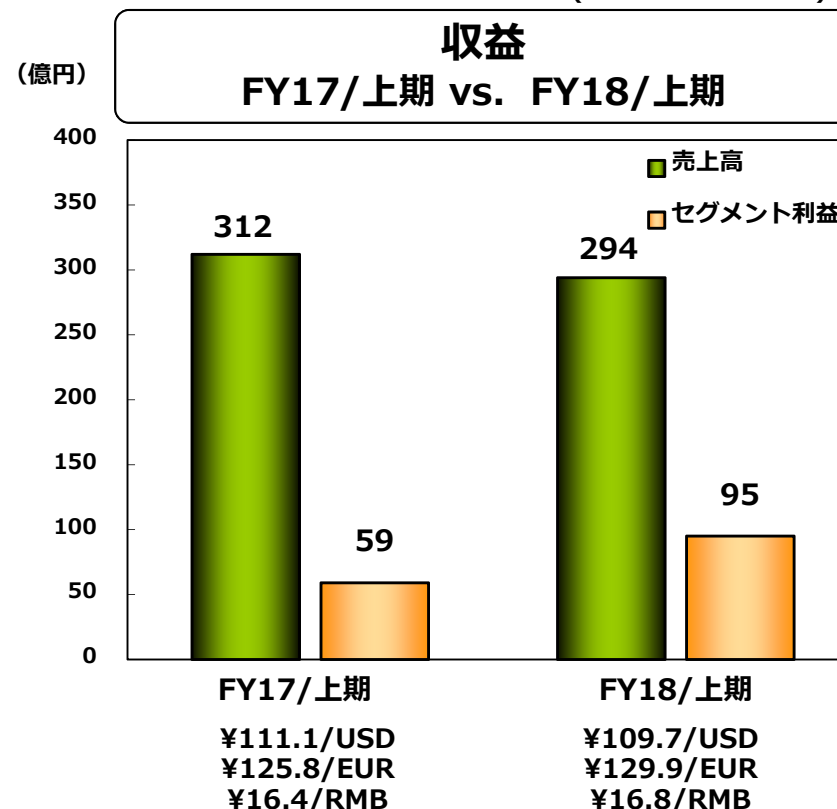
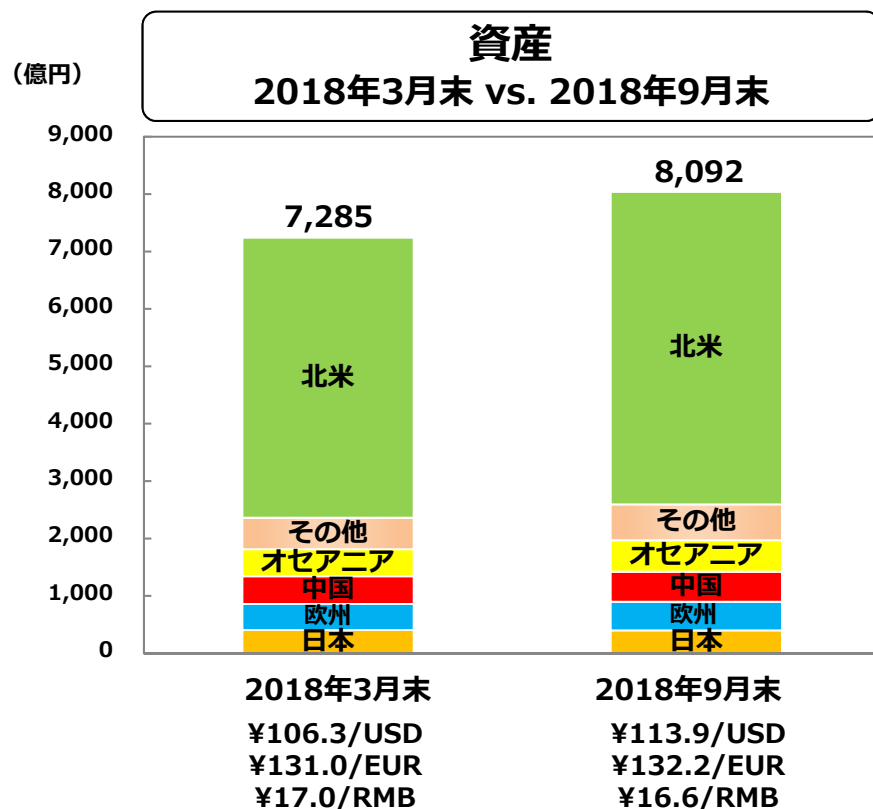


FY18上期 地域別売上高



- ・資産は為替の影響と北米・オセアニア・欧州等における販売の増加により、前年度末比+807億円増加。
- ・売上高は北米での資産増加はあったものの、前年同期にチリにおいて、リース契約の中途解約による中古車売上があったことにより減収。
- ・セグメント利益は、主に中国での貸倒引当金の戻り益もあり増益。

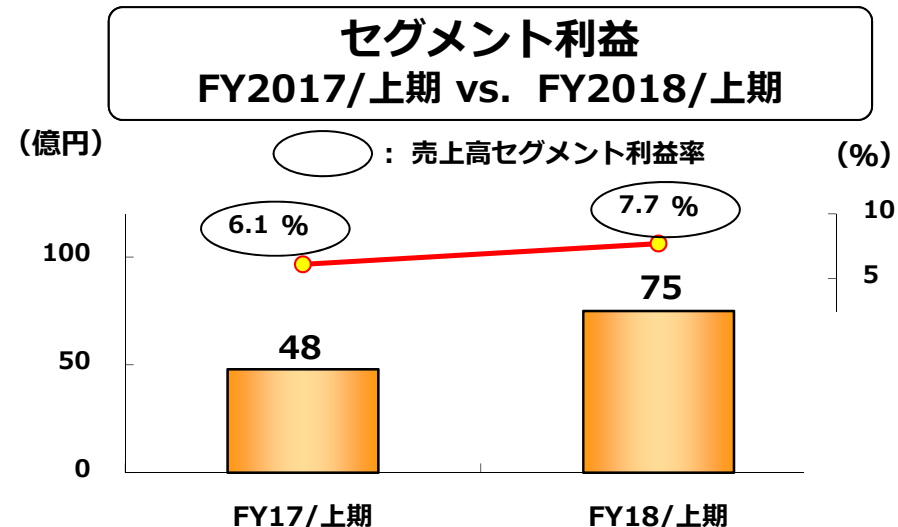
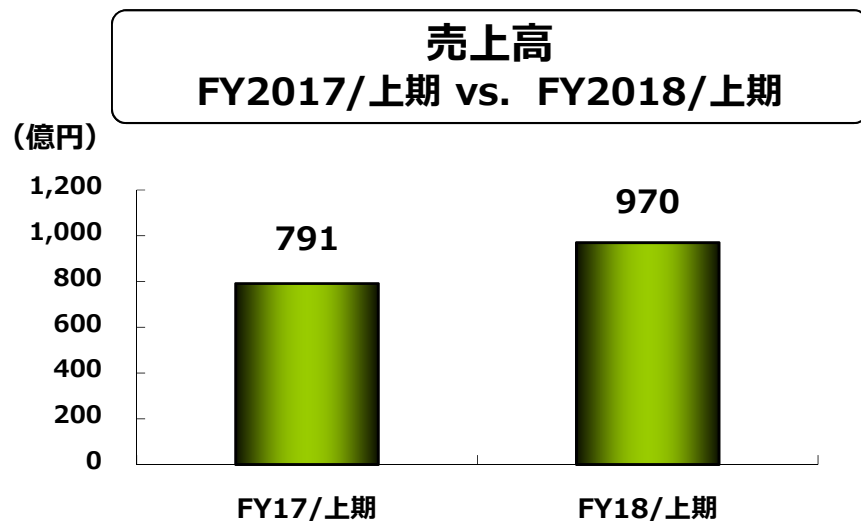
2017年度の利益は組替表示しています(詳細は3ページを参照)。



金額単位：億円	2018/3E	2018/9E	2018/3E比
借入金	5,460	6,133	+673
ネットベースの借入金	5,426	6,092	+666
ネットD/Eレシオ	3.50	3.66	+0.16ポイント

- ・売上高は自動車業界向けの工作機械の販売増加に加え、好調な半導体市場に伴うエキシマレーザー関連などの販売増加により、前年同期比+22.6%増収の970億円。
- ・売上高セグメント利益率は7.7%。

2017年度の利益は組替表示しています(詳細は3ページを参照)。



### 売上高の内訳

(億円)	FY17/ 上期	FY18/ 上期	前年同期比	
			増減	増減率
コマツ産機等(プレス事業合計)	218	263	+45	+20.8%
コマツNTC	271	334	+62	+23.1%
ギガフォトン	171	200	+28	+16.5%
その他	130	172	+42	+32.2%
合計	791	970	+178	+22.6%

- ・総資産は為替の影響および棚卸資産が増加したことに伴い、前年度末比で+2,089億円の増加。
- ・株主資本比率は前年度末比+0.3ポイント増の49.7%。

(金額単位：億円) ○:ネットD/Eレシオ	2018年3月末 ¥106.3/USD ¥131.0/EUR ¥ 17.0/RMB	2018年9月末 ¥113.9/USD ¥132.2/EUR ¥ 16.6/RMB	増減
現金・預金(含む定期預金) [a]	1,468	1,287	▲180
受取手形・売掛金(含む長期売上債権)	11,550	12,135	+584
棚卸資産	7,302	8,451	+1,148
有形固定資産	7,405	7,654	+249
その他資産	5,997	6,284	+286
<b>資産合計</b>	<b>33,725</b>	<b>35,814</b>	<b>+2,089</b>
支払手形・買掛金	3,035	2,752	▲282
借入金・社債 [b]	8,105	9,173	+1,067
その他負債	5,147	5,255	+107
<b>負債合計</b>	<b>16,289</b>	<b>17,181</b>	<b>+892</b>
(株主資本比率)	(49.4%)	(49.7%)	(+0.3ポイント)
株主資本	16,645	17,783	+1,137
非支配持分	790	849	+58
<b>負債及び純資産合計</b>	<b>33,725</b>	<b>35,814</b>	<b>+2,089</b>
<b>ネットD/Eレシオの借入金・社債 [b-a]</b>	○ <b>0.40</b> <b>6,637</b>	○ <b>0.44</b> <b>7,885</b>	<b>+1,248</b>
<b>ネットD/Eレシオ</b> (リテールファイナンス会社を除いた場合)	○ <b>0.08</b>	○ <b>0.11</b>	

## Ⅱ. 2018年度の見通し

- ・ 上期は北米やアジアなどを中心に売上高が想定を上回ったこと、下期は北米やマイニングを中心に需要は堅調に推移すると見込み、また為替が想定より円安傾向であることから、下期為替の前提を見直し、売上高および利益を下記のとおり上方修正する。
- ・ 連結売上高：前年比+6.4%増収の2兆6,620億円(期初見通しから+1,590億円上方修正)
- ・ 営業利益：前年比+41.9%増益の3,810億円(期初見通しから+420億円上方修正)
- ・ 1株当たり年間配当金は期末予想の96円から+6円増額の102円。

2017年度の利益は組替表示しています(詳細は3ページを参照)。 ※下期為替の前提を1ドル：105円に見直す。(1ユーロ：123円、1中国元：15.8円は据え置き)

金額単位：億円	2017年度	2018年度見通し(最新)		2018年度見通し(期初)		前年比(B-A)			
	(A) ¥111.2/USD ¥129.6/EUR ¥16.8/RMB	※(B) ¥107.4/USD ¥126.4/EUR ¥16.3/RMB	従来コマツ *1	KMC	(C) ¥100.0/USD ¥123.0/EUR ¥15.8/RMB	従来コマツ *1	KMC	増減	増減率
連結売上高	25,011	26,620	22,913	3,707	25,030	21,880	3,150	+1,608	+6.4%
セグメント利益	2,998	3,840	3,382	458	3,450	3,195	255	+842	+28.1%
その他の営業収益(▲費用)	▲313	▲30	▲30	-	▲60	▲60	-	+283	-
営業利益	2,685	3,810	3,352	458	3,390	3,135	255	+1,125	+41.9%
売上高営業利益率	10.7%	14.3%	14.6%	12.4%	13.5%	14.3%	8.1%	+3.6 <sup>ポイント</sup>	-
その他の収益(▲費用)	233	▲190			▲190			▲423	-
税引前純利益	2,918	3,620			3,200			+702	+24.1%
純利益*2	1,964	2,400			2,260			+436	+22.2%
ROE	12.1%	14.1%			13.4%			+2.0 <sup>ポイント</sup>	
1株当たり配当金(円)	84円	102円			96円			+18円	
連結配当性向	40.3%	40.1%			40.1%				

\*1 KMCの影響を除いたコマツの従来ベースの業績を示している。

\*2 米国財務会計基準審議会会計基準編纂書810の適用による「当社株主に帰属する当期純利益」



## 2018年度の各セグメント売上高と利益の見通し

- ・建設機械・車両の売上高は、北米やアジアでの一般建機と鉱山機械が期初想定を上回り、為替も円安傾向であることから下期為替の前提を見直し売上高、利益を上方修正する。売上高は期初見通しから+1,450億円上方修正し2兆4,150億円に、セグメント利益も+350億円上方修正し3,530億円と見込む。
- ・リテールファイナンスの売上高は、期初見通しから+50億円上方修正。セグメント利益も+40億円上方修正。
- ・産業機械他は、期初見通しから変更なし。

2017年度の利益は組替表示しています(詳細は3ページを参照)。

□ : 利益率 ( ) : 外部顧客向け売上高

金額単位：億円	2017年度	2018年度見通し(最新)		2018年度見通し(期初)			前年比(B-A)		
	(A)	(B)	従来コマツ	KMC	(C)	従来コマツ	KMC	増減	増減率
売上高	25,011	26,620	22,913	3,707	25,030	21,880	3,150	+1,608	+6.4%
建設機械・車両	22,809 (22,673)	24,150 (24,030)	20,443 (20,323)	3,707 (3,707)	22,700 (22,490)	19,550 (19,340)	3,150 (3,150)	+1,341 (+1,357)	+5.9% (+6.0%)
リテールファイナンス	603 (496)	580 (530)	580 (530)	-	530 (480)	530 (480)	-	▲23 (+34)	▲3.8% (+6.9%)
産業機械他	1,854 (1,841)	2,080 (2,060)	2,080 (2,060)	-	2,080 (2,060)	2,080 (2,060)	-	+226 (+219)	+12.2% (+11.9%)
消去	▲255	▲190	▲190	-	▲280	▲280	-	+65	-
セグメント利益	12.0% 2,998	14.4% 3,840	14.8% 3,382	12.4% 458	13.8% 3,450	14.6% 3,195	8.1% 255	+842	+28.1%
建設機械・車両	12.0% 2,730	14.6% 3,530	15.0% 3,072	458	14.0% 3,180	15.0% 2,925	8.1% 255	+800	+29.3%
リテールファイナンス	21.5% 129	27.6% 160	27.6% 160	-	22.7% 120	22.7% 120	-	+31	+24.0%
産業機械他	7.7% 143	8.7% 180	8.7% 180	-	8.7% 180	8.7% 180	-	+36	+25.6%
消去または全社	▲4	▲30	▲30	-	▲30	▲30	-	▲26	-

### 各セグメントの状況：(最新見通しの対前年実績との比較)

#### ■ 建設機械・車両：

需要が増加している北米やアジアでの一般建機と鉱山機械の売上増加、値上げ効果に加え、KMCでも売上増加により増収。利益面は為替差でマイナス影響があるものの、物量の増加や値上げ効果に加え、KMCの一時費用の減少等により、全体として増益。

#### ■ リテールファイナンス：

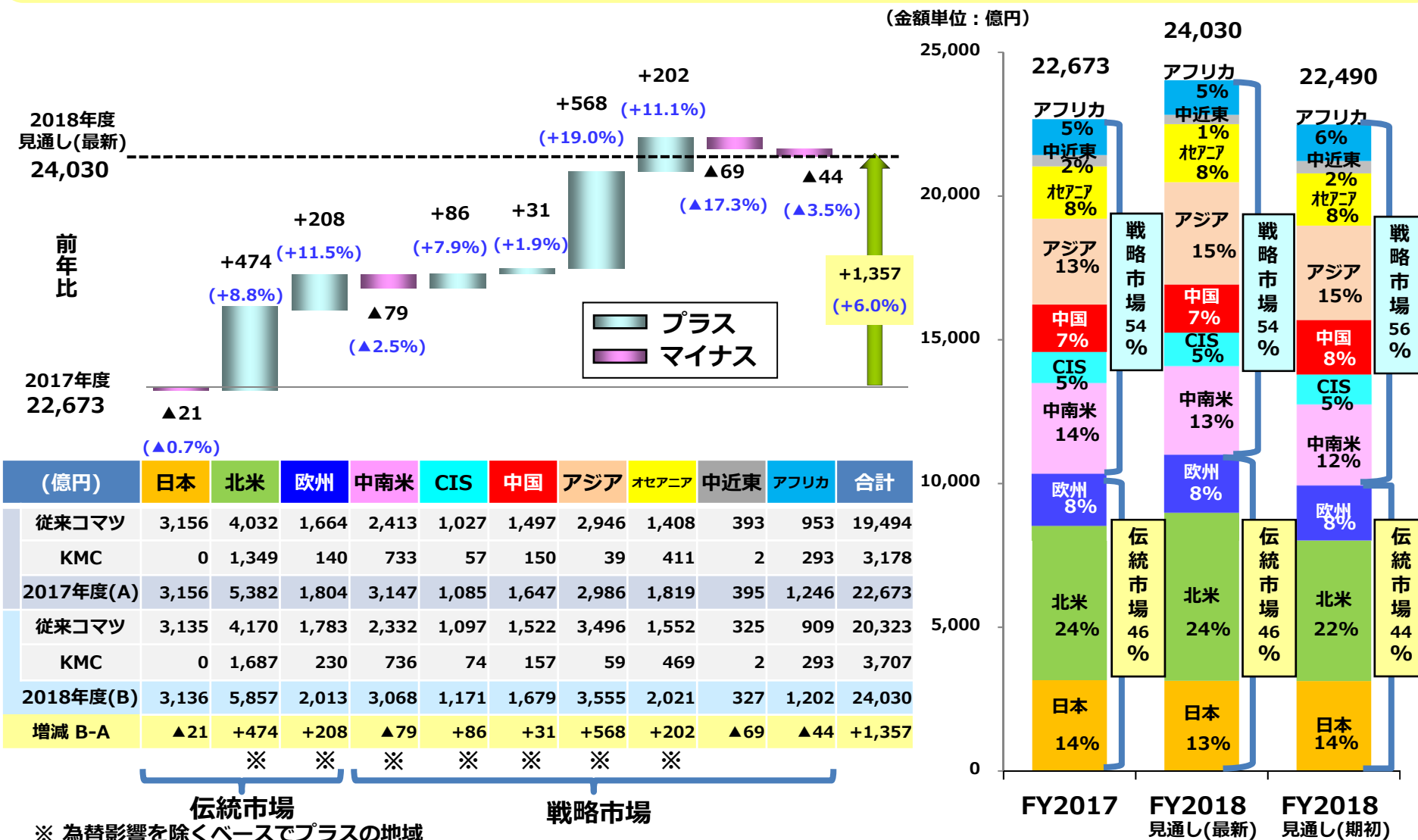
主として北米での資産の増加はあるものの、前年チリにおいて、リース契約の中途解約による中古車売上があったことにより減収。利益は2016年度に計上した中国での貸倒引当金の戻り益により増益。

#### ■ 産業機械他：

好調な半導体市場に伴うエキシマレーザー関連などの販売増加により、増収増益。

## <建設機械・車両> 2018年度の地域別売上高の見通し (外部顧客向け)

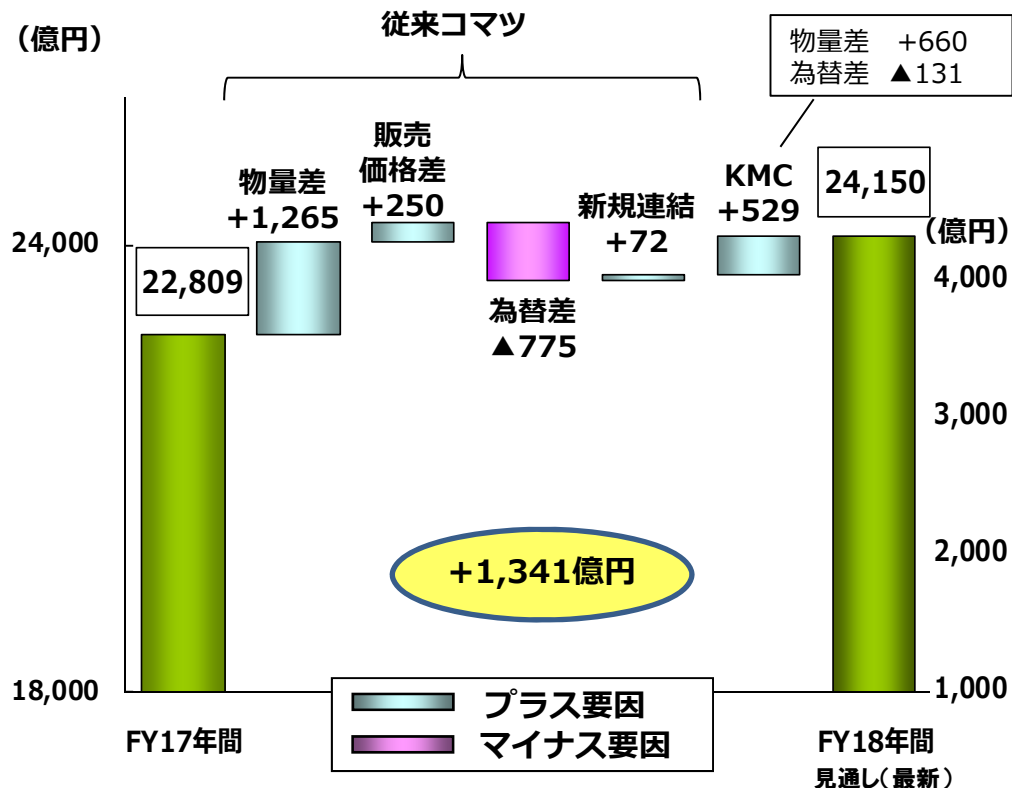
- ・前年比では、北米やアジアを中心に売上高が増加する見通し。
- ・期初見通し比では、北米が想定を上回ったことや、下期も北米やマイニングを中心に需要が堅調に推移すると予想し、上方修正。一方、中国は下方修正。
- ・戦略市場の比率は前年並みの54%となる見通し。



- ・売上高は物量の増加、販売価格差のプラス影響により前年比+1,341億円増収の2兆4,150億円、セグメント利益も+800億円増益の3,530億円となる見通し。
- ・売上高セグメント利益率は前年比+2.6ポイント増の14.6%の見通し。

2017年度の利益は組替表示しています(詳細は3ページを参照)。

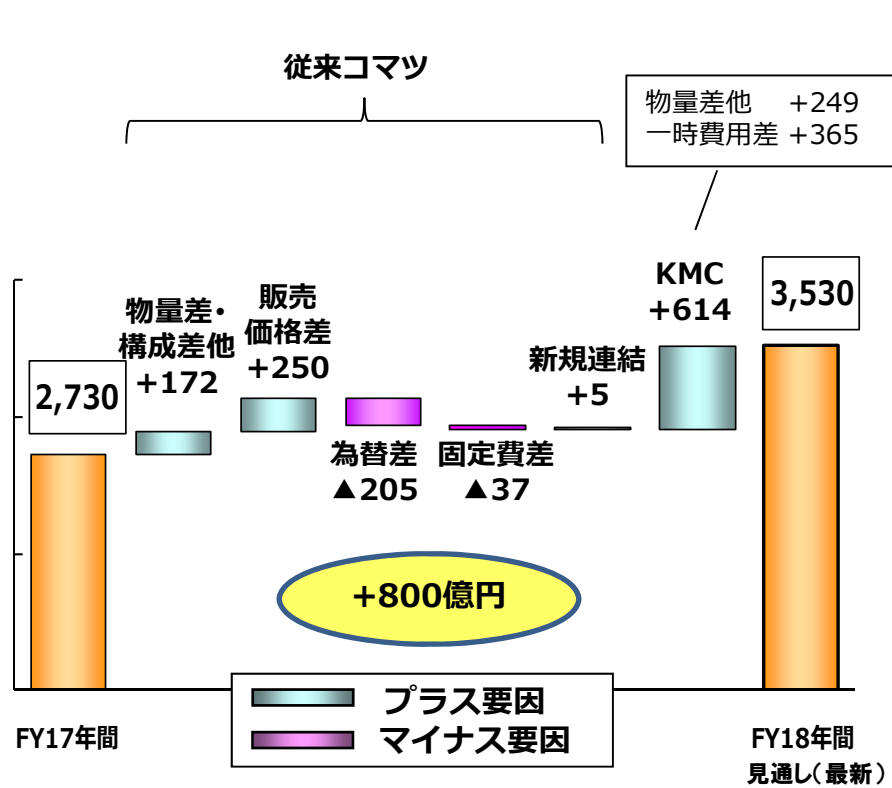
### 売上高 2017年度 vs. 2018年度(最新見通し)



¥111.2/USD  
¥129.6/EUR  
¥16.8/RMB

¥107.4/USD  
¥126.4/EUR  
¥16.3/RMB

### セグメント利益 2017年度 vs. 2018年度(最新見通し)



12.0% ——— 売上高セグメント利益率 ——— 14.6%

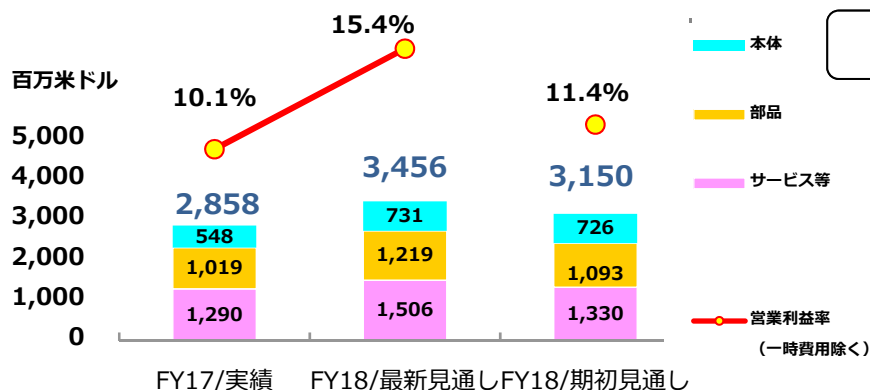
<建設機械・車両> 2018年度のKMCの業績見通し

- ・ 2018年度の売上高は、前年比+16.6%増の3,707億円の見通し。
- ・ 営業利益は一時費用を除くベースで571億円。一時費用▲113億円を織り込んだベースでは、458億円の営業利益となる見通し。

2017年度の利益は組替表示しています(詳細は3ページを参照)。

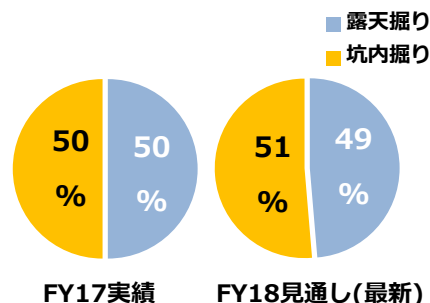
(金額単位：億円)	2017年度 実績 (¥111.2/USD)(A)	2018年度 見通し(最新) (¥107.4/USD)(B)	2018年度 見通し(期初) (¥100.0/USD)	前年比(B-A)	
				増減	増減率
売上高	3,178	3,707	3,150	+529	+16.6%
本体	611	781	726	+170	+27.8%
部品	1,134	1,307	1,093	+173	+15.3%
サービス等	1,433	1,618	1,330	+185	+12.9%
営業利益 <一時費用除く>	10.1% 321	15.4% 571	11.4% 360	+251	+78.0%
一時費用 (マイナスで表記)	▲478	▲113	▲105	+365	-
PPAによる償却費 ※1	※2 ▲402	▲79	▲80	+323	-
統合費用ほか	▲75	▲34	▲25	+41	-
営業利益 (▲損失) <一時費用含む>	▲4.9% ▲157	12.4% 458	8.1% 255	+615	-

年度別売上高・営業利益率の推移 (米ドルベース)

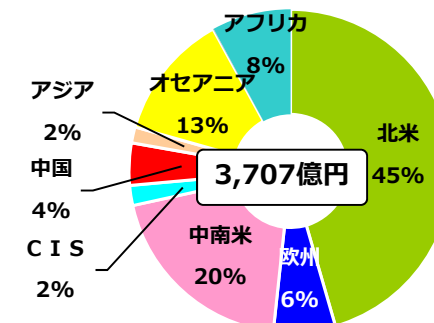


※1：PPAは、Purchase Price Allocation(パーチェス・プライス・アロケーション)の略で資産・負債を公正価値評価/配分する手続き  
 ※2：うち棚卸資産に係るPPAによる償却費 ▲258億円

セグメント別売上高



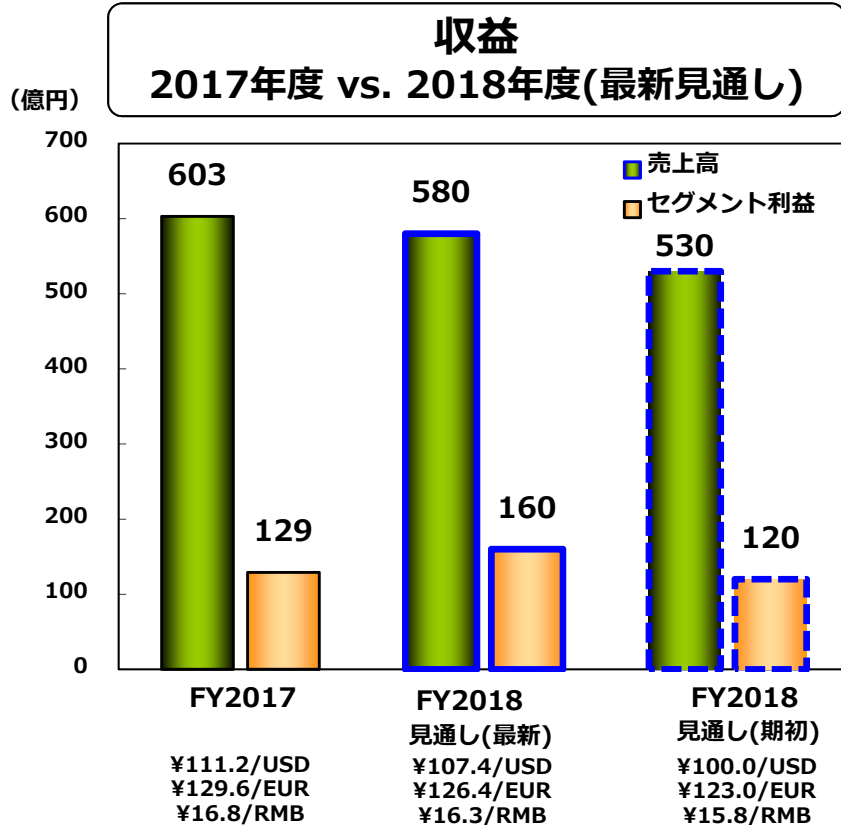
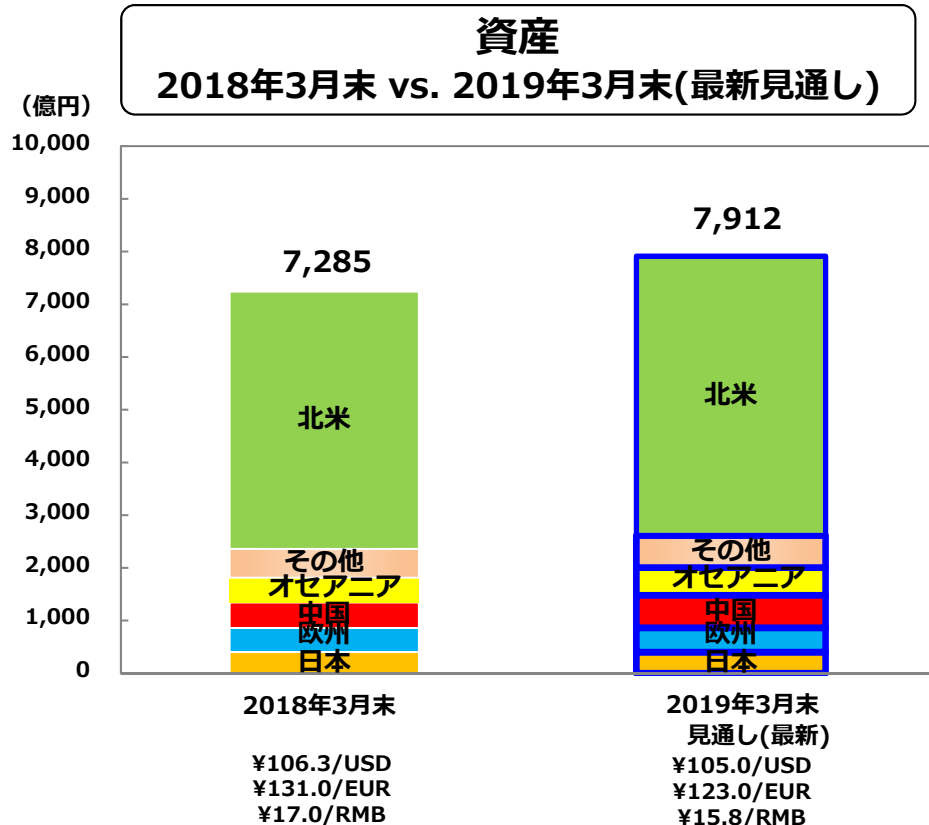
FY18 地域別売上高見通し (最新)



3,707億円

- ・ 資産は主に北米等でファイナンス契約の増加により前年度末比で増加の見通し。
- ・ 売上は為替の影響及び前年度チリで計上した中途解約に伴う中古車売上がなくなるにより減少。
- ・ 利益は2016年度に中国で実施した追加引当金の戻し益もあり増益。

2017年度の利益は組替表示しています(詳細は3ページを参照)。

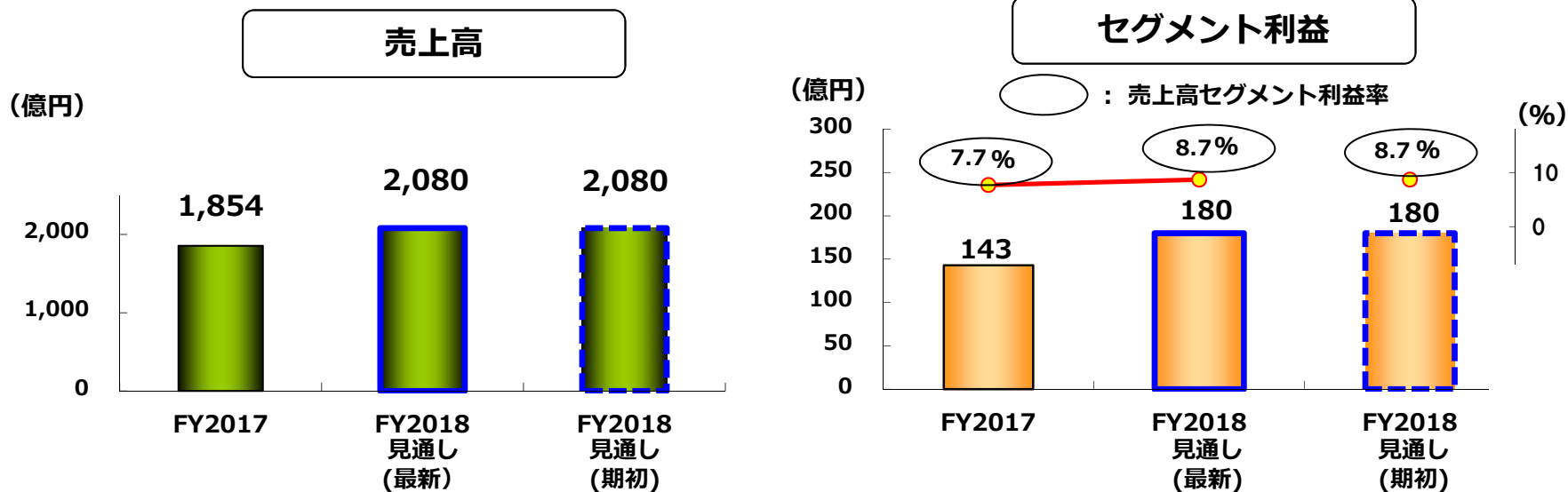


金額単位：億円	2018/3E (A)	2019/3E 見通し(B) (最新)	2018/3E比 (B-A)
借入金	5,460	6,108	+648
ネットベースの借入金	5,426	6,059	+633
ネットD/Eレシオ	3.50	3.79	+0.29ポイント

	FY2017 (A)	FY2018 見通し(B) (最新)	FY2018 見通し(期初)	前年比 (B-A)
ROA	1.9%	2.2%	1.6%	+0.3%

- ・売上高は前年比+12.2%増収の2,080億円。セグメント利益は前年比+36億円増益の180億円となる見通し。
- ・期初見通しから変更なし。

2017年度の利益は組替表示しています(詳細は3ページを参照)。

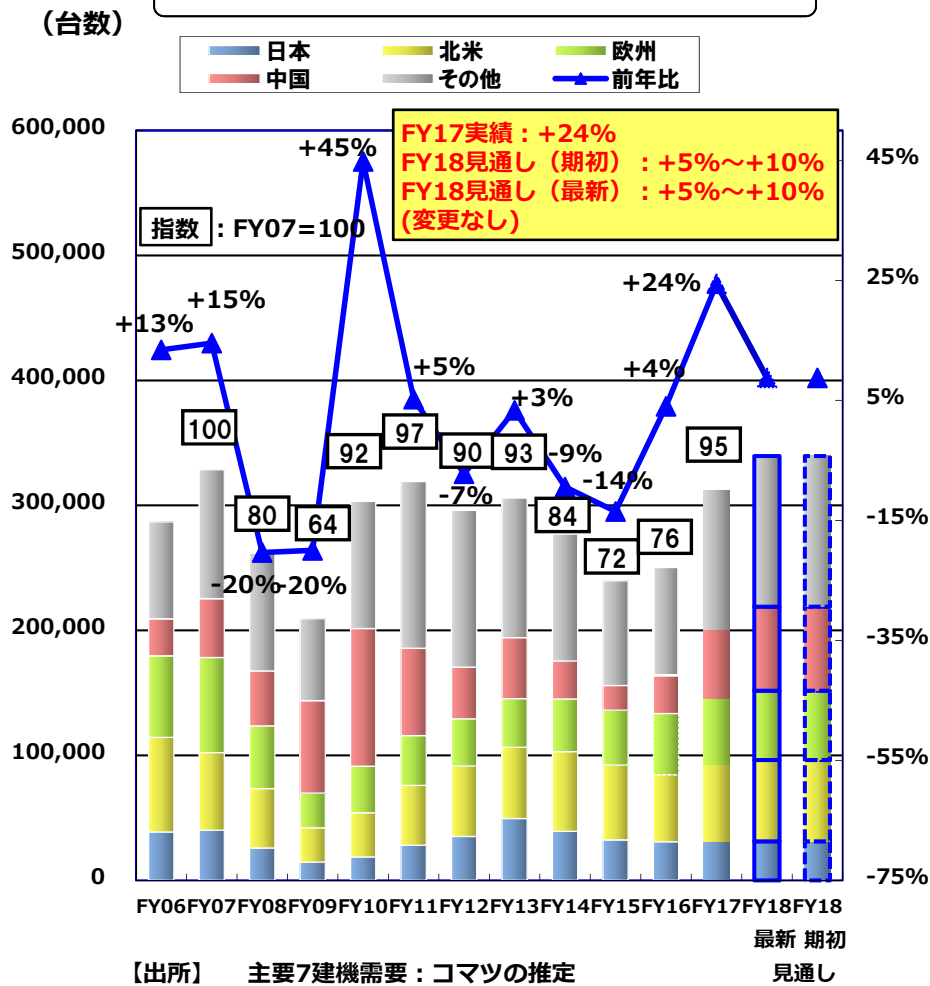


売上高の内訳 金額単位：億円	2017年度 (A)	2018年度 見通し(B) (最新)	2018年度 見通し (期初)	前年比 (B-A)	
				増減	増減率
コマツ産機等(プレス事業合計)	514	609	615	+94	+18.3%
コマツNTC	629	684	679	+54	+8.7%
ギガフォトン	371	414	405	+42	+11.5%
その他	337	372	380	+34	+10.2%
合計	1,854	2,080	2,080	+225	+12.2%

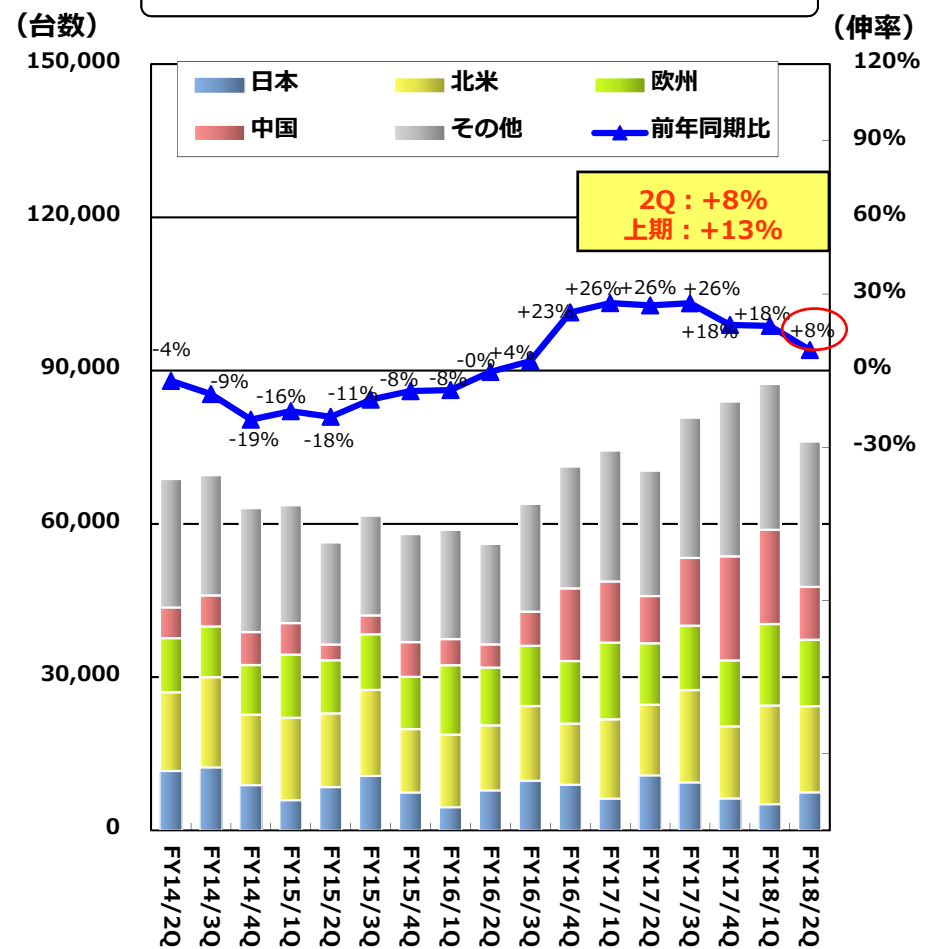
<建設機械・車両> 主要7建機の需要推移と見通し

- ・ 2018年度上期の需要は、前年同期比+13%。
- ・ 北米、中国、インドネシア、欧州での一般建機の需要、および鉱山機械の需要が堅調に推移。
- ・ 年間の需要見通しは変更なし。

主要7建機 年度別需要推移



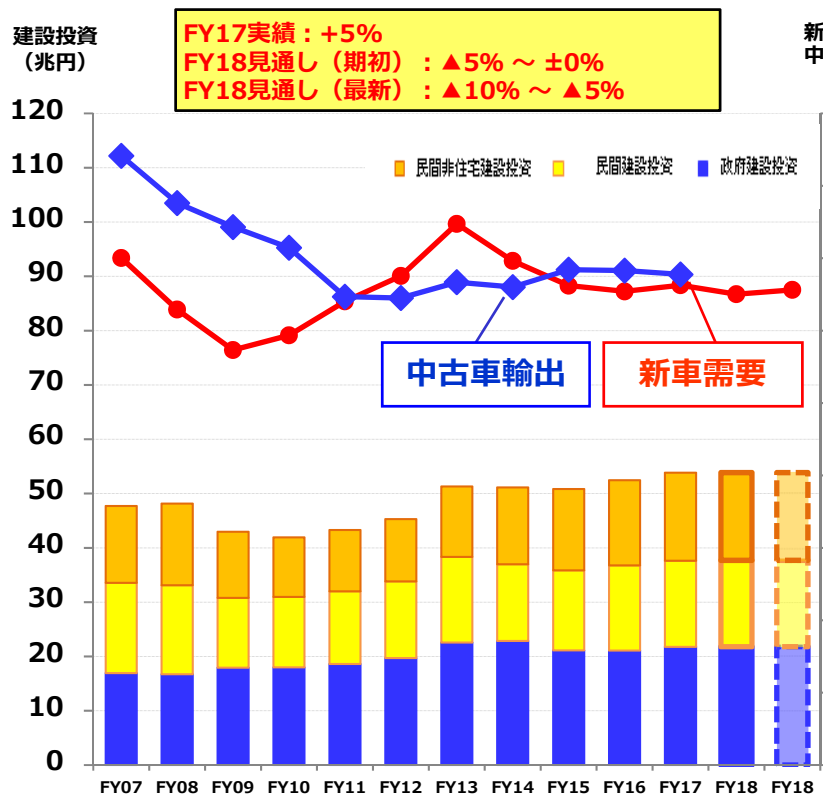
主要7建機 四半期別需要推移



<建設機械・車両> 主要市場の需要推移と見通し：①日本

- ・2018年度上期の需要は、前年同期比▲26%。
- ・2016年度第4四半期から続く国内排ガス規制（2017年9月開始）前の駆け込み需要の反動減により、レンタル向けを中心に新車需要が大きく減少。
- ・年間の需要見通しは、▲10%～▲5%に下方修正。

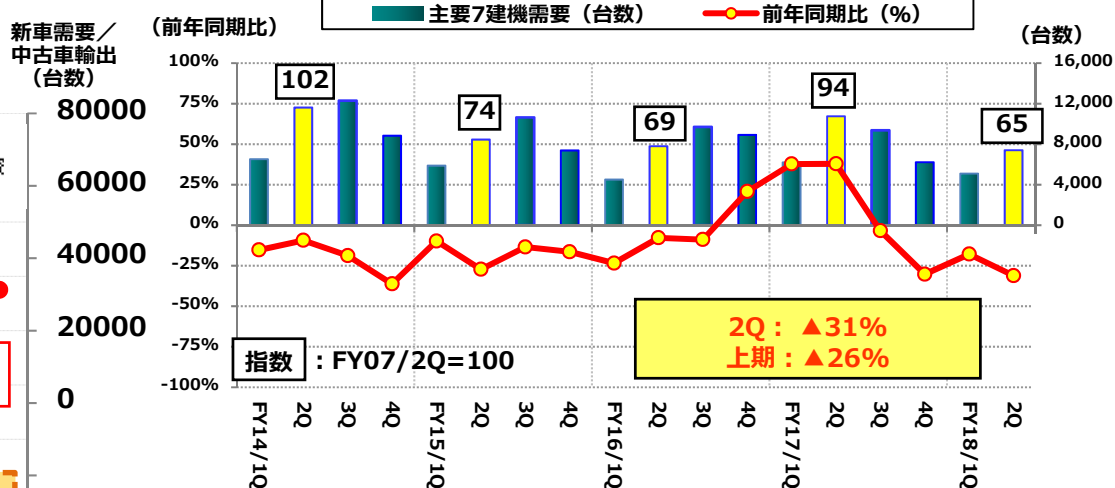
新車需要（主要7建機）と建設投資



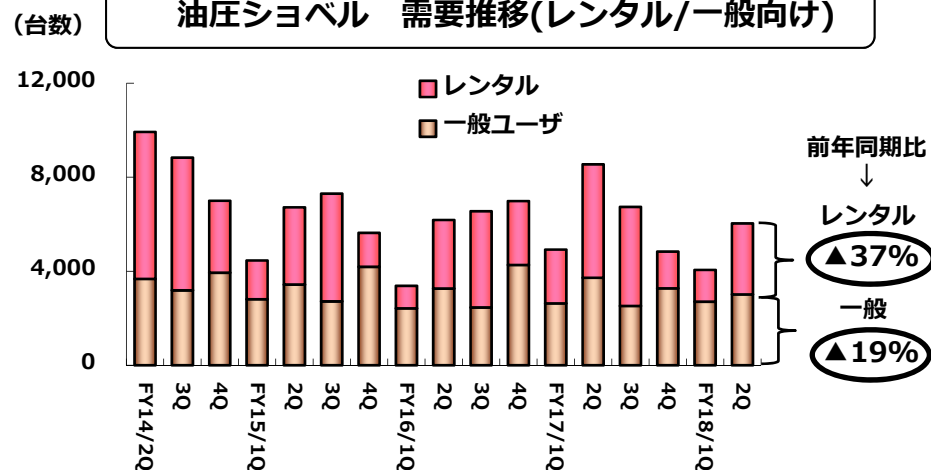
【出所】建設投資：国土交通省／建設経済研究所  
主要7建機需要：コマツの推定  
中古車輸出量：コマツの推定

最新初見通し

主要7建機 四半期別需要推移



油圧ショベル 需要推移(レンタル/一般向け)

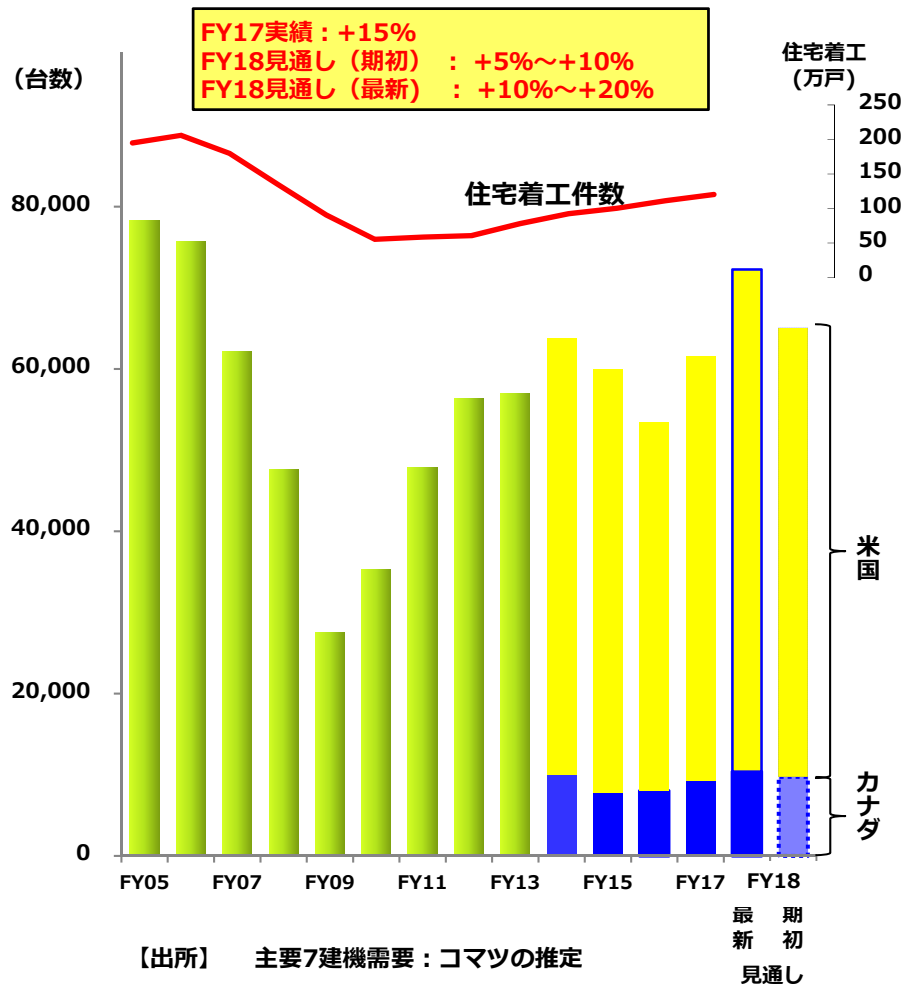




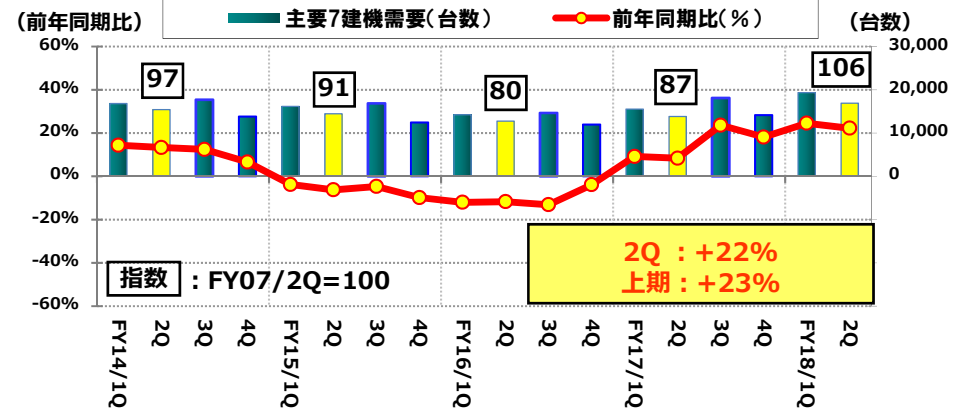
<建設機械・車両> 主要市場の需要推移と見通し：②北米

- ・ 2018年度上期の需要は、前年同期比+23%。
- ・ 米国において、土木およびエネルギー関連向けを中心に需要は引き続き堅調に推移し、カナダは住宅・非住宅向けとも堅調に推移。
- ・ 年間の需要見通しは、+10%~+20%に上方修正。

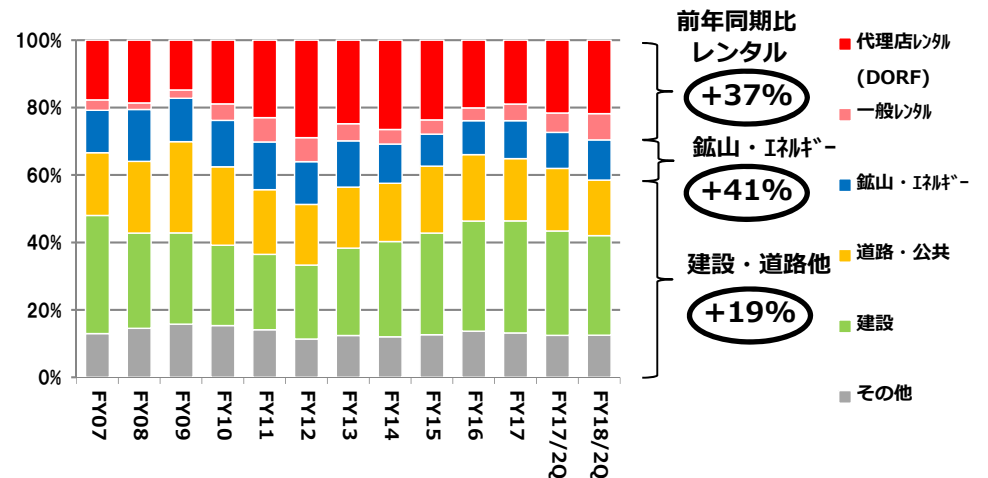
主要7建機 需要推移と住宅着工件数



主要7建機 四半期需要推移



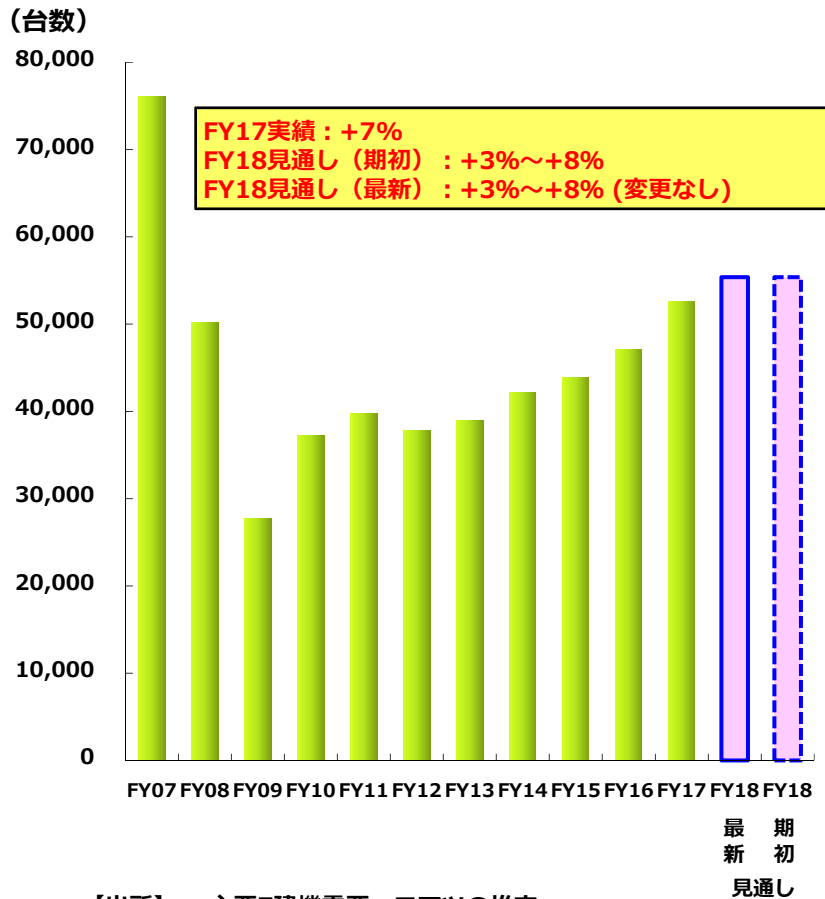
セグメント別需要構成比(台数ベース)



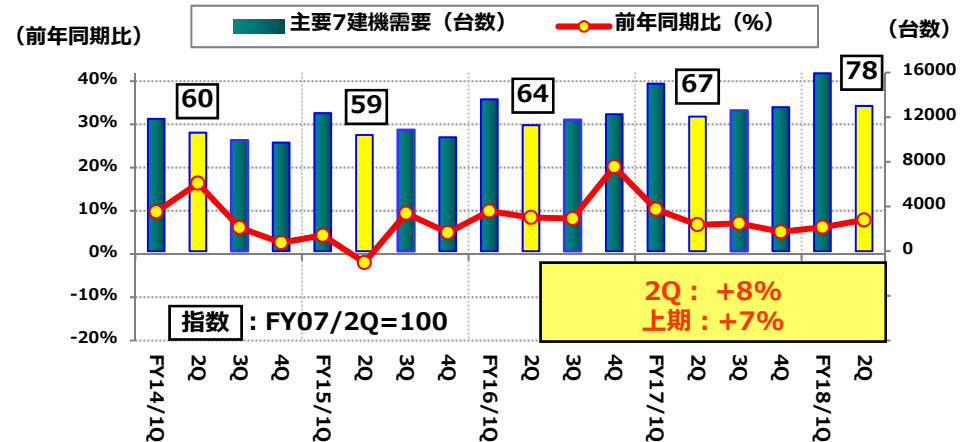
## <建設機械・車両> 主要市場の需要推移と見通し：③ 欧州

- ・ 2018年度上期の需要は、前年同期比+7%。
- ・ 引き続き主要市場であるドイツ、イギリス、フランスが堅調に推移したことに加え、南欧の需要が回復。
- ・ 年間の需要は、期初見通しから変更なし。

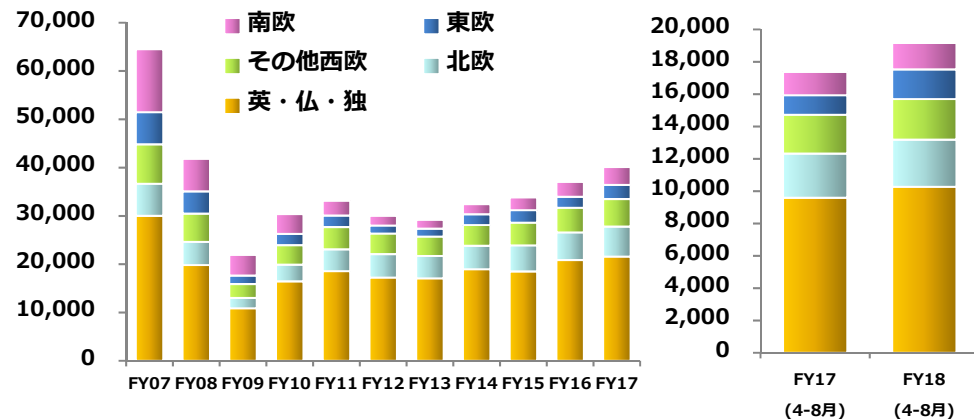
主要7建機 年度別需要推移



主要7建機 四半期需要推移

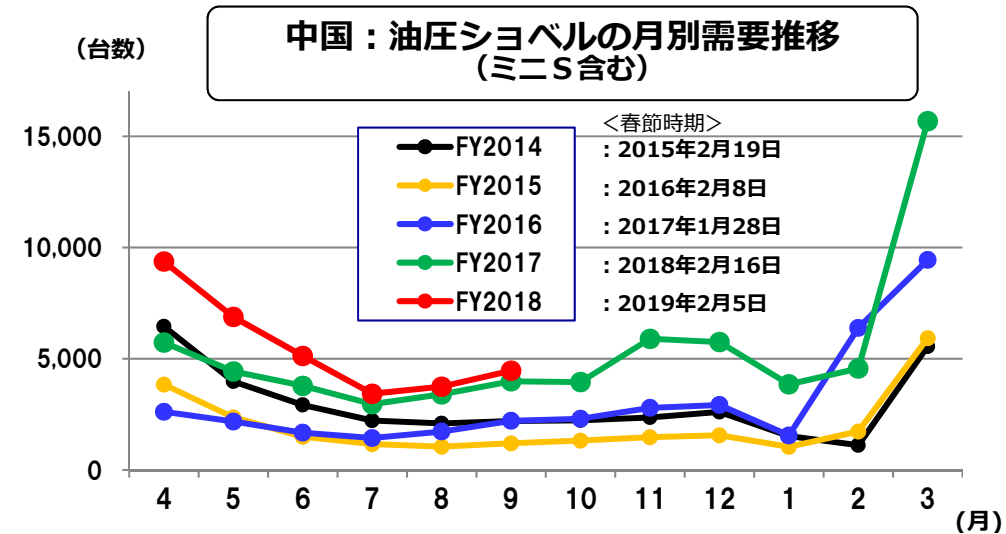
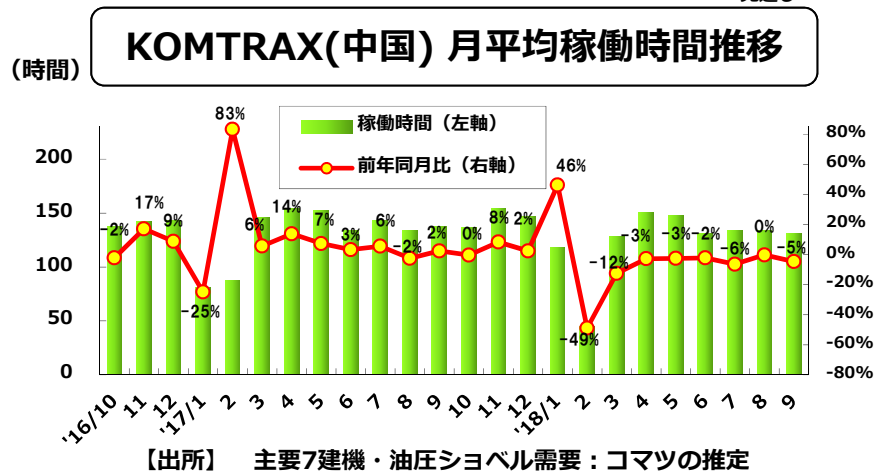
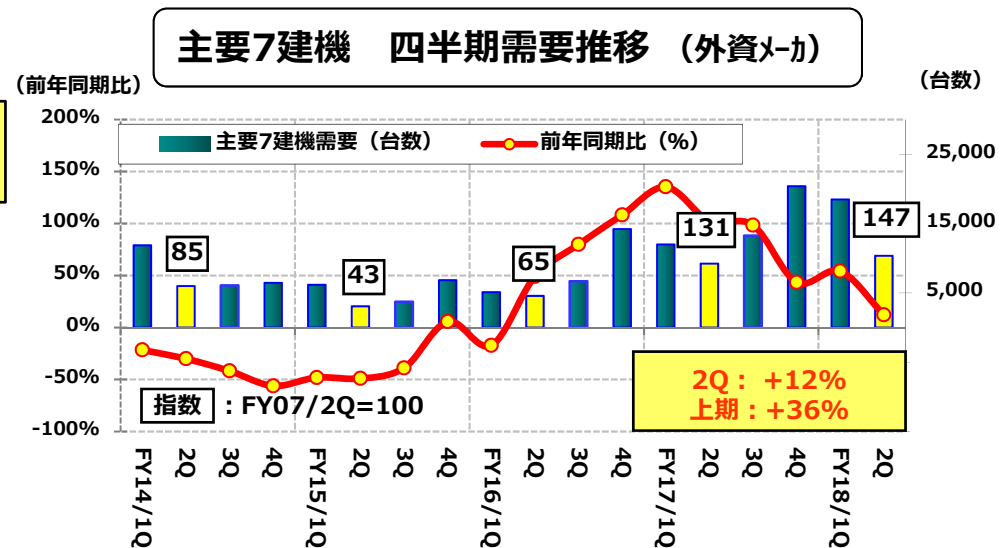
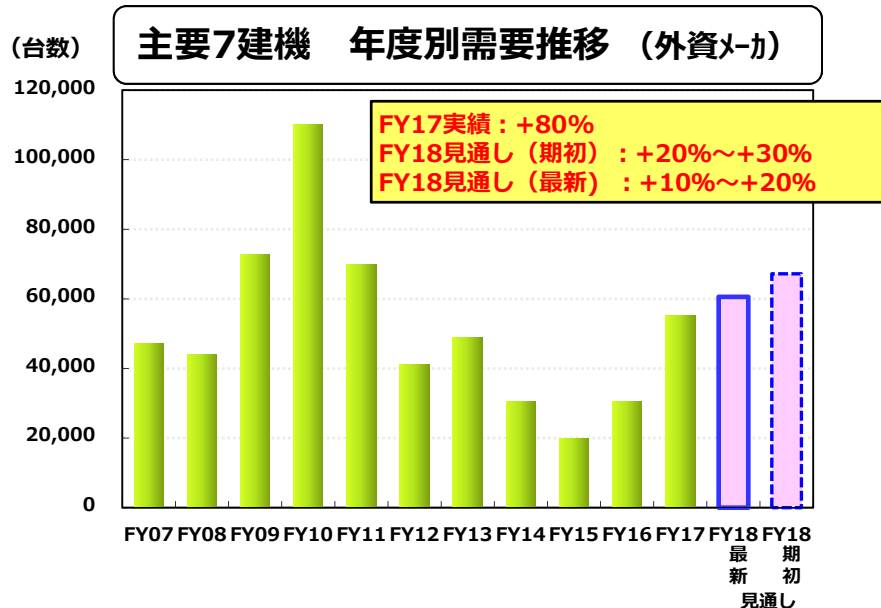


主要7建機(6tクラス除く)地域別需要



<建設機械・車両> 主要市場の需要推移と見通し：④中国

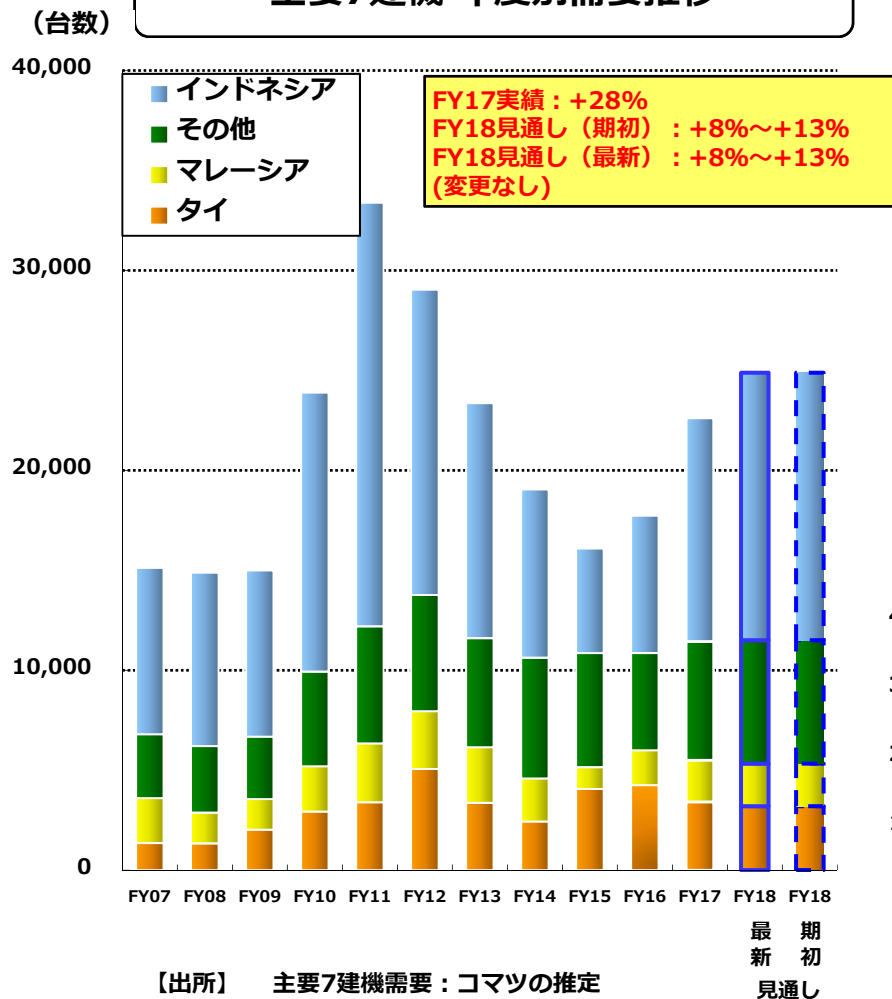
- ・ 2018年度上期の需要は、前年同期比+36%。
- ・ インフラ拡大の方針が示されているが、中国市場の先行きの不透明感は継続。
- ・ 年間の需要見通しは、+10%~+20%に下方修正。



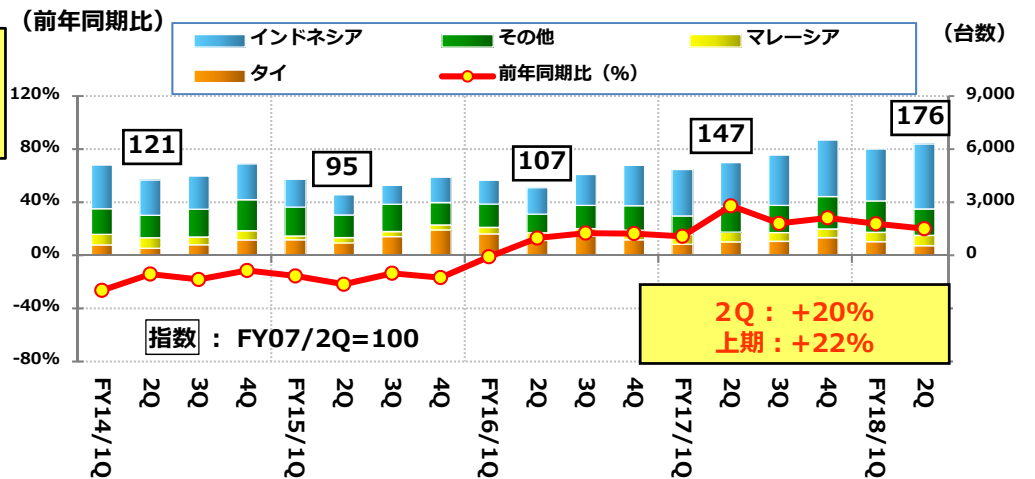
＜建設機械・車両＞ 主要市場の需要推移と見通し： ⑤ 東南アジア

- ・ 2018年度上期の需要は、前年同期比+22%。
- ・ 最大市場のインドネシアの需要が引き続き堅調。
- ・ 年間の需要は、期初見通しから変更なし。

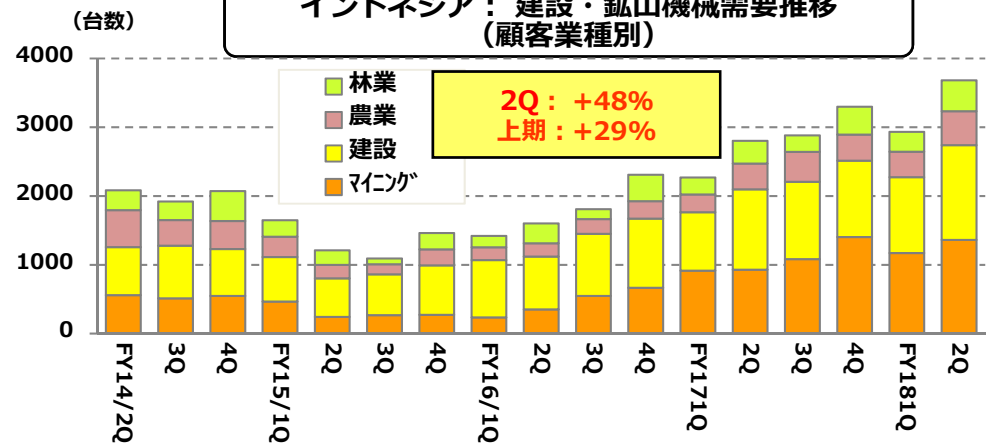
主要7建機 年度別需要推移



主要7建機 四半期需要推移



インドネシア：建設・鉱山機械需要推移 (顧客業種別)

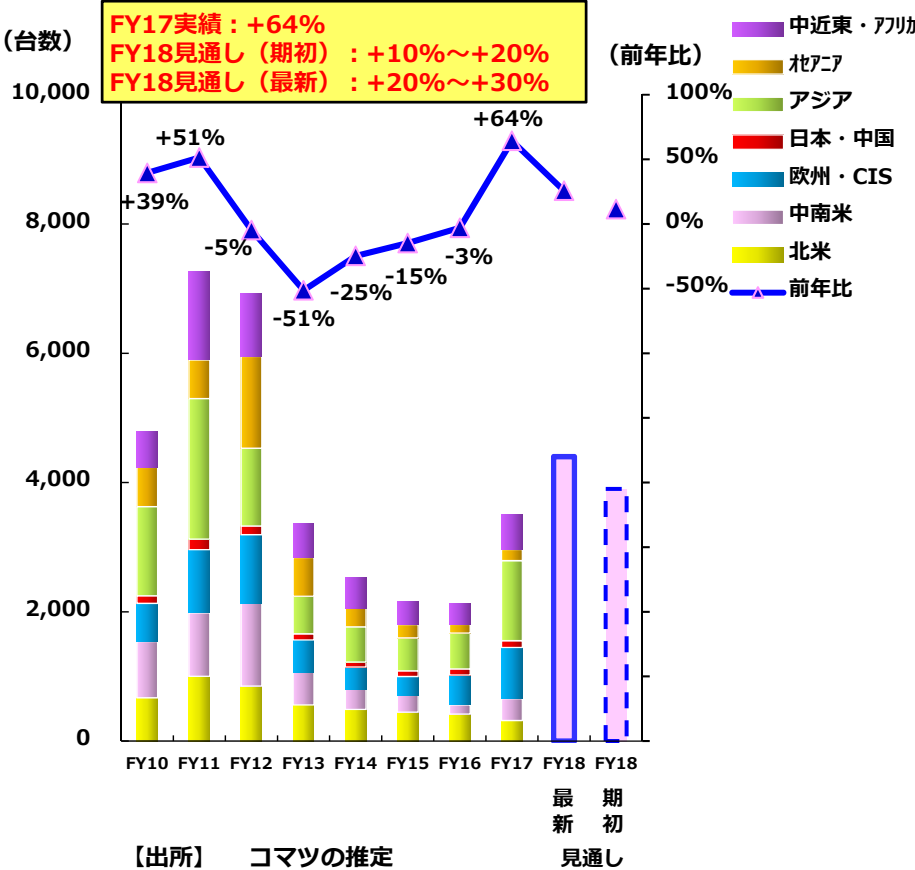


<建設機械・車両> 鉱山機械の需要推移と見通し

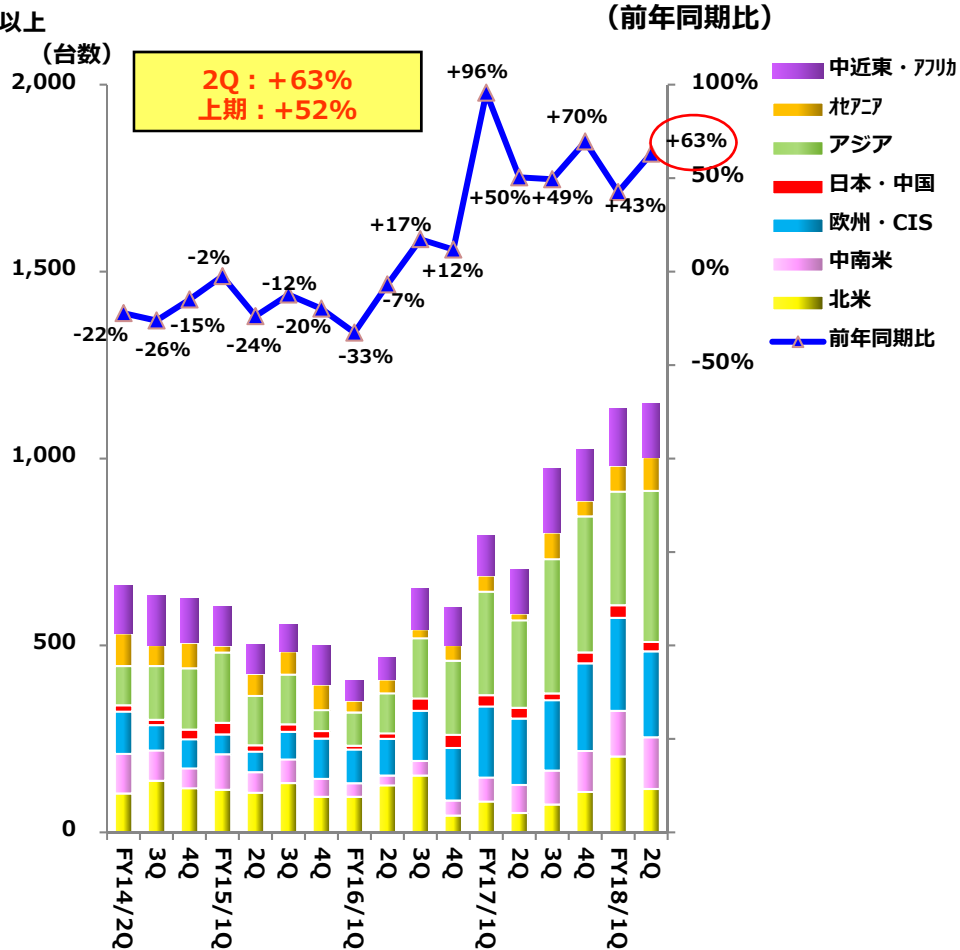
- ・ 2018年度上期の鉱山機械の世界需要は、前年同期比+52%。
- ・ 北米、中南米、オセアニア、インドネシアなどが伸長。
- ・ 年間の需要見通しを+20%~+30%増加に上方修正。

鉱山機械 年度別需要推移

- ・ ダンプトラック：75 t (HD785) 以上 ・ フルトーガ-：525HP (D375) 以上
- ・ イクスケーバ-：200 t (PC2000) 以上 ・ ホイローダ- (機械駆動)：810HP (WA800) 以上
- ・ モータグレーダ-：280HP (GD825) 以上



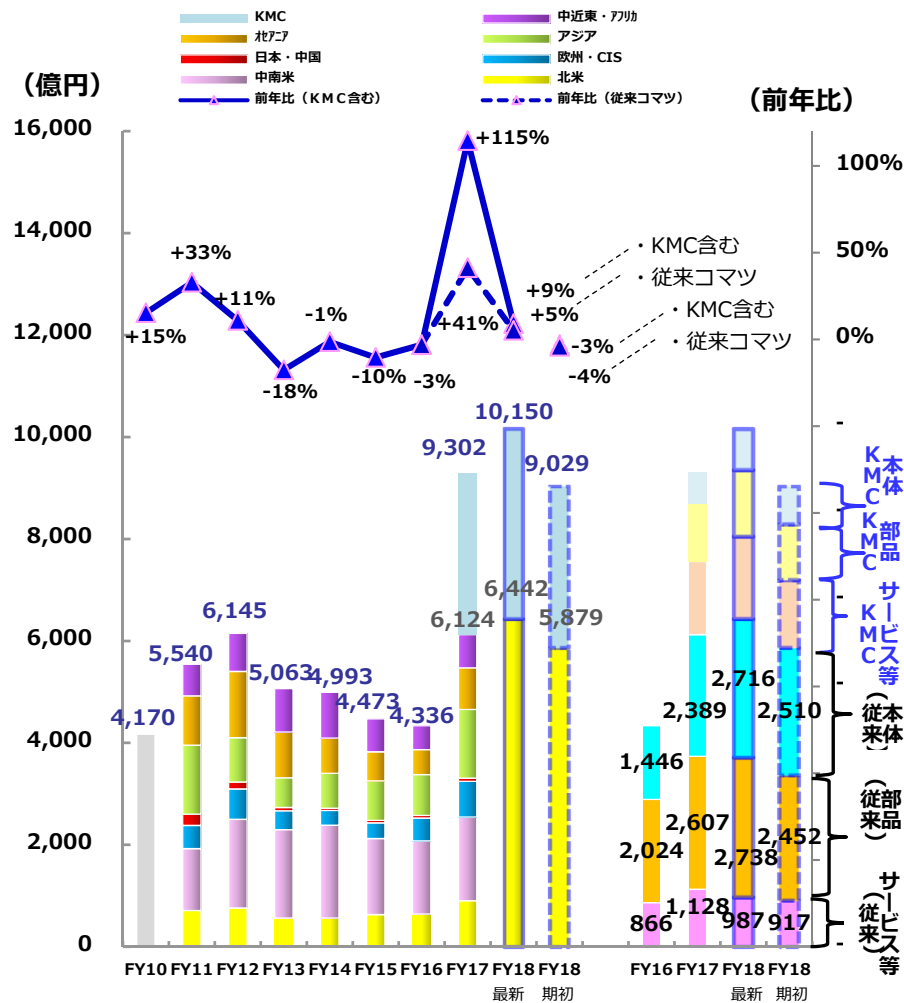
鉱山機械 四半期別需要推移



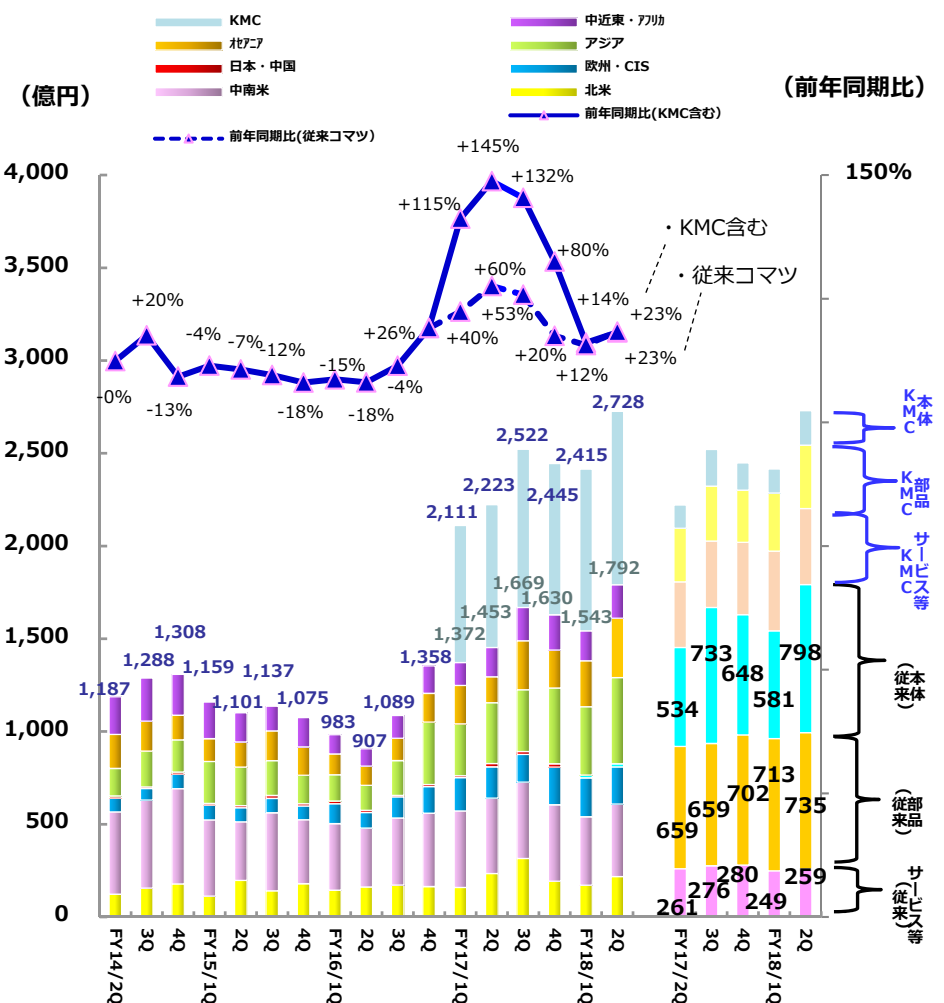
## <建設機械・車両> 鉱山機械の売上高の見通し

- ・ 2018年度第2四半期の売上高は、前年同期比+23%増の2,728億円。KMCを除く従来コマツのベースでは前年同期比+23%増の1,792億円。
- ・ 従来コマツのベースでは、オセアニア、アジアなどでの需要増加の影響を受け、売上が伸長。
- ・ 年間の見通しを前年比+9%増加の1兆150億円に上方修正。

### 鉱山機械 年度別売上高 (部品・サービス等含む)



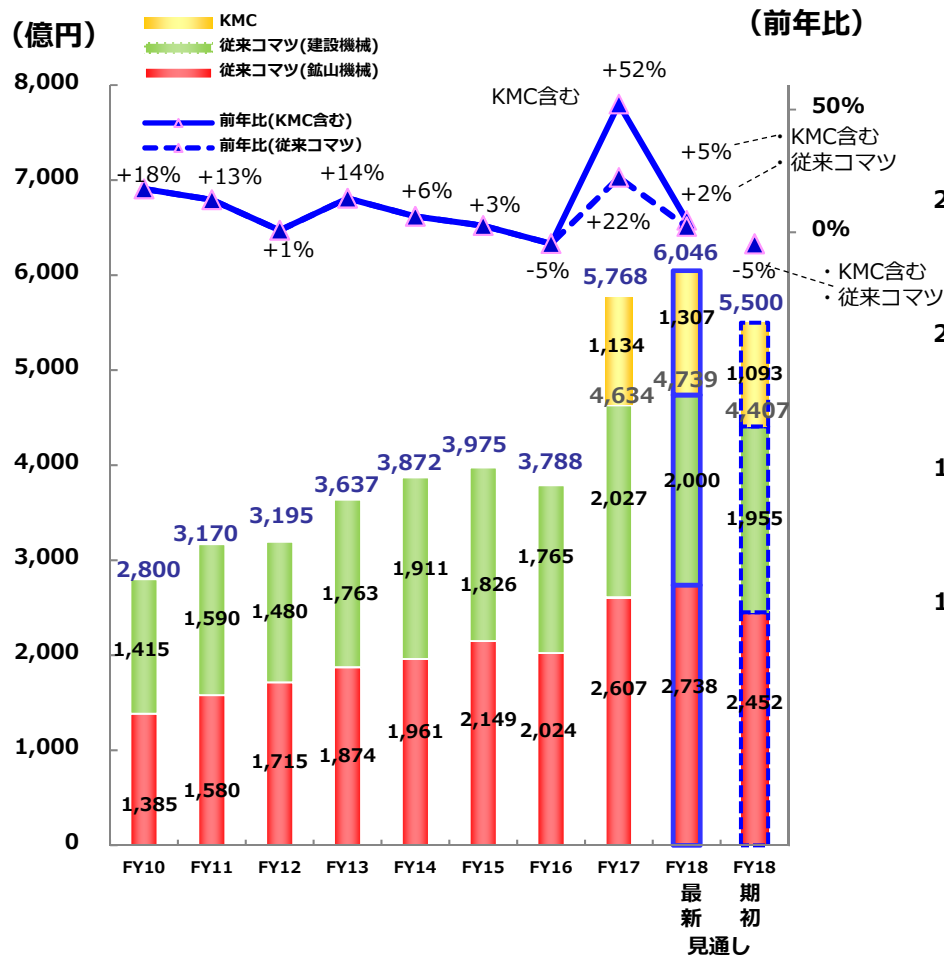
### 鉱山機械 四半期別売上高 (部品・サービス等含む)



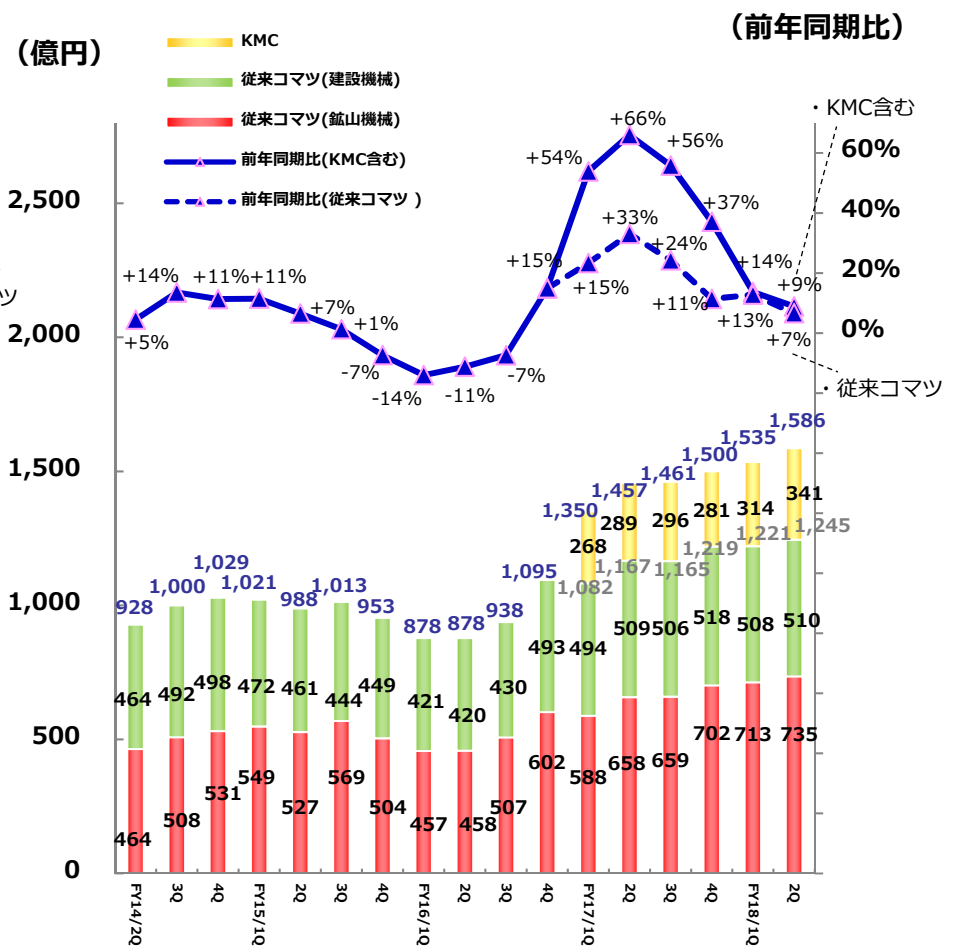
## <建設機械・車両> 部品の売上高の見通し

- ・ 2018年度第2四半期の部品売上高は、前年同期比+9%増加の1,586億円。KMCを除く従来コマツのベースでは+7%増加の1,245億円。
- ・ アフターマーケットの需要を確実に取り込んだ結果、当期の売上げが伸長。
- ・ 戦略市場での一般建機の部品と鉱山機械の部品の需要増加などが見込まれるため、年間の見通しを前年比+5%増加の6,046億円に上方修正。

### 部品売上高



### 四半期別 部品売上高推移

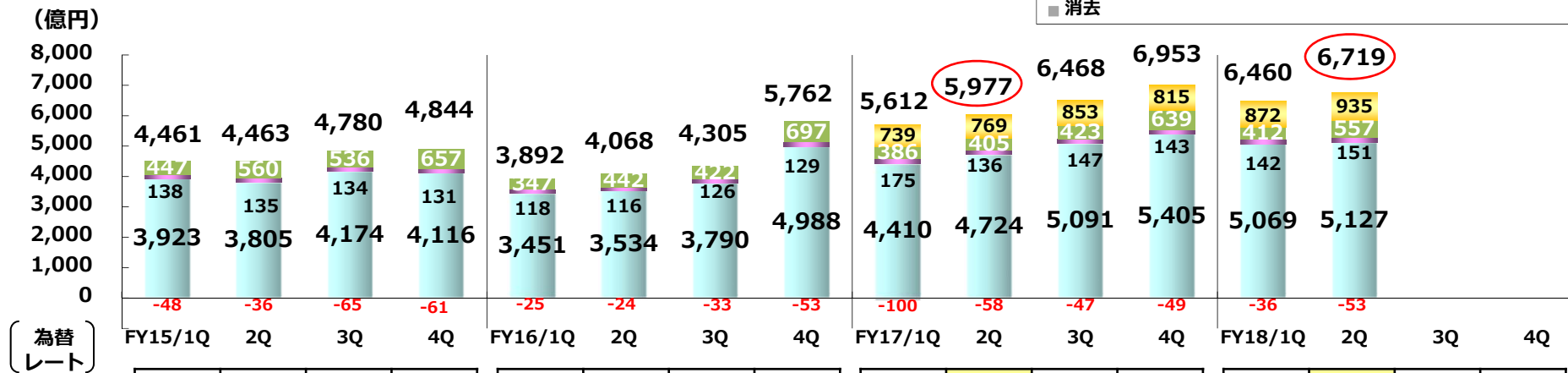
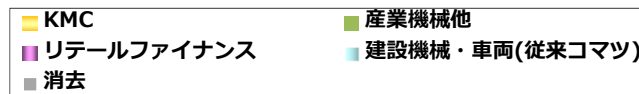


## 参考資料



## 【参考資料】 四半期毎の売上高と営業利益の推移

### 連結売上高 (FY15～)



為替レート	15/1Q	15/2Q	15/3Q	15/4Q
¥/USD	121.3	122.6	121.2	118.0
¥/EUR	133.0	136.2	132.3	128.0
¥/RMB	19.6	19.5	19.0	17.9

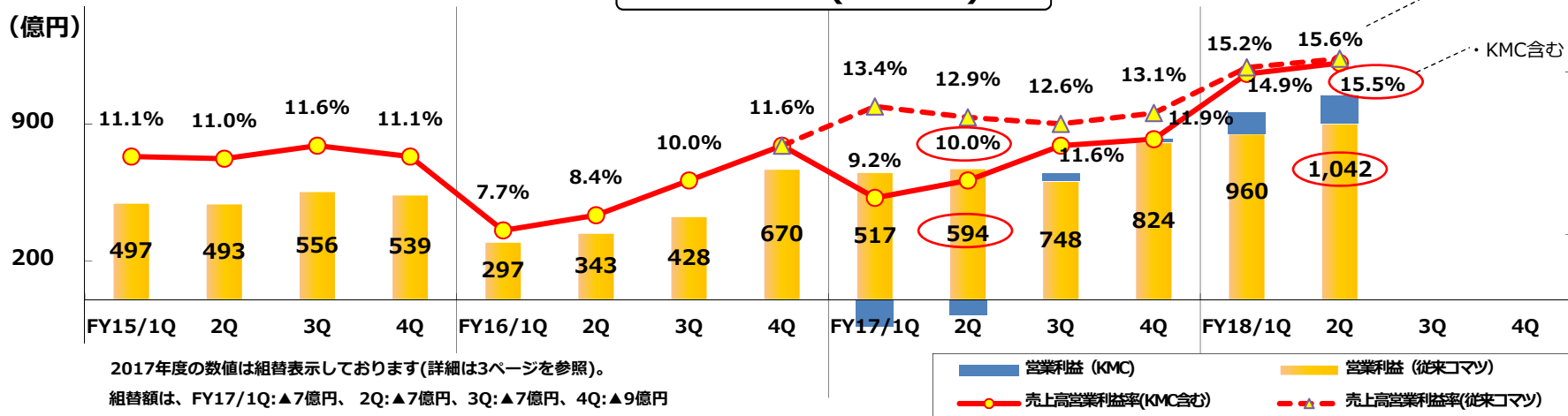
15/1Q	15/2Q	15/3Q	15/4Q
121.3	122.6	121.2	118.0
133.0	136.2	132.3	128.0
19.6	19.5	19.0	17.9

16/1Q	16/2Q	16/3Q	16/4Q
109.8	102.9	106.9	114.7
124.3	114.6	116.7	121.4
16.9	15.4	15.7	16.7

17/1Q	17/2Q	17/3Q	17/4Q
111.2	110.9	113.0	109.6
121.6	129.9	133.2	133.7
16.3	16.6	17.0	17.2

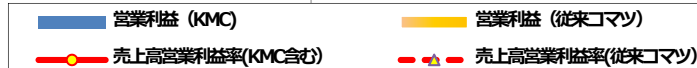
18/1Q	18/2Q	18/3Q	18/4Q
108.2	111.2	-	-
130.1	129.6	-	-
17.1	16.4	-	-

### 営業利益 (FY15～)

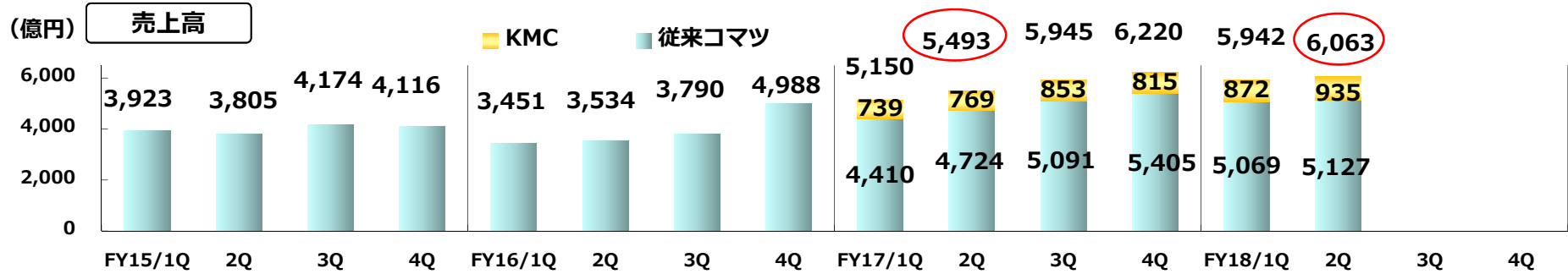


2017年度の数値は組替表示しております(詳細は3ページを参照)。

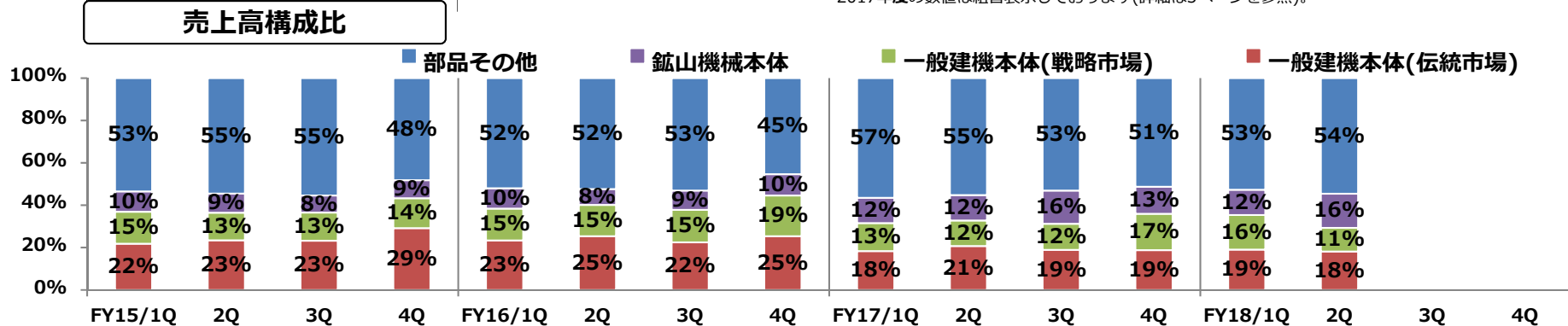
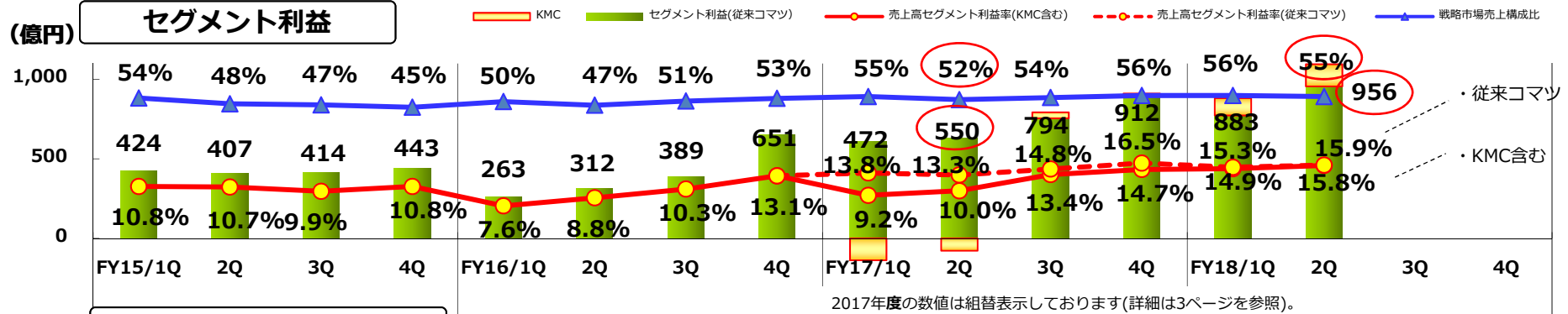
組替額は、FY17/1Q:▲7億円、2Q:▲7億円、3Q:▲7億円、4Q:▲9億円



### <建設機械・車両> 四半期毎の売上高とセグメント利益の推移



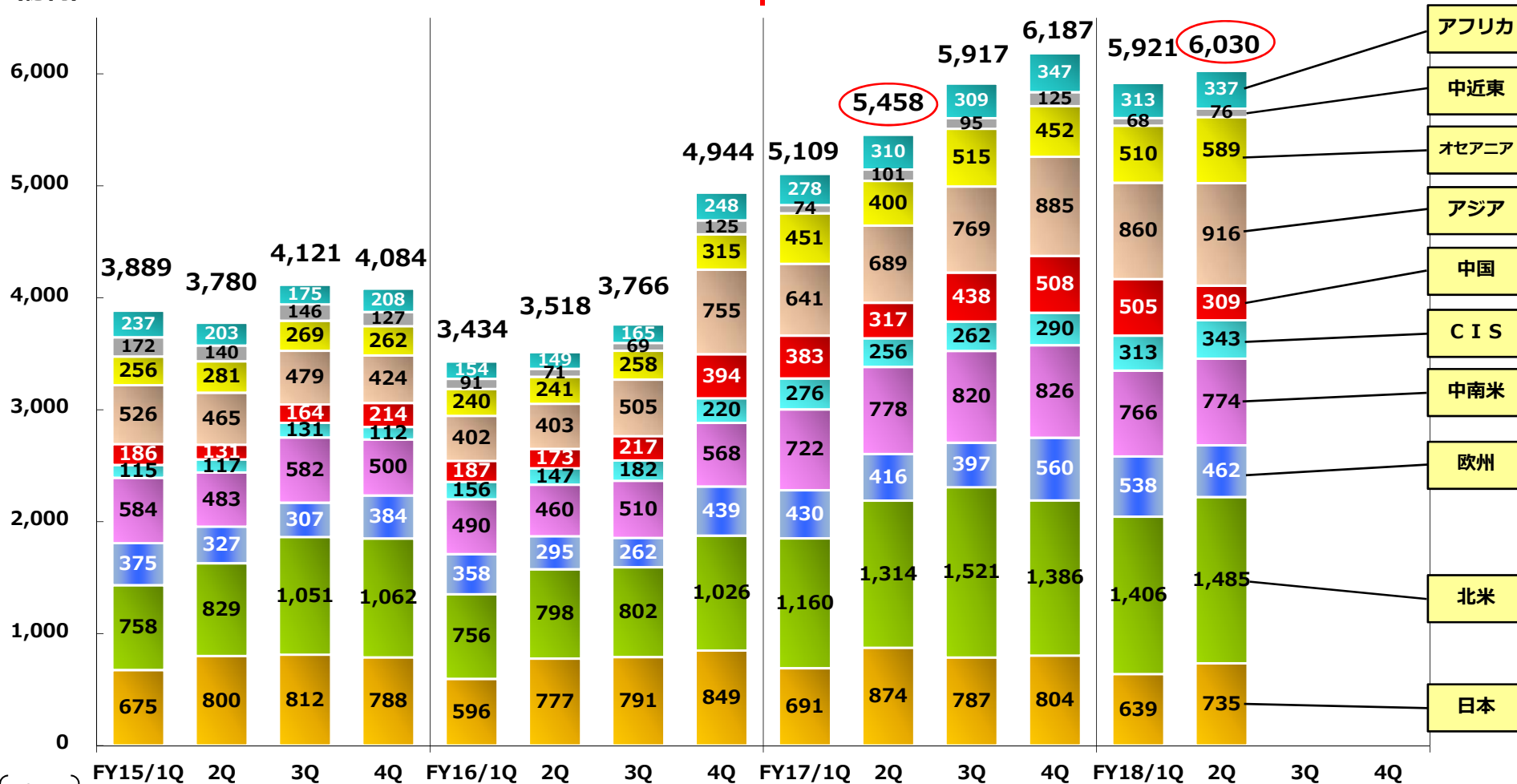
	15/1Q	15/2Q	15/3Q	15/4Q	16/1Q	16/2Q	16/3Q	16/4Q	17/1Q	17/2Q	17/3Q	17/4Q	18/1Q	18/2Q	18/3Q	18/4Q
¥/USD	121.3	122.6	121.2	118.0	109.8	102.9	106.9	114.7	111.2	110.9	113.0	109.6	108.2	111.2		
¥/EUR	133.0	136.2	132.3	128.0	124.3	114.6	116.7	121.4	121.6	129.9	133.2	133.7	130.1	129.6		
¥/RMB	19.6	19.5	19.0	17.9	16.9	15.4	15.7	16.7	16.3	16.6	17.0	17.2	17.1	16.4		



## <建設機械・車両> 四半期毎の地域別売上高（外部顧客向け）

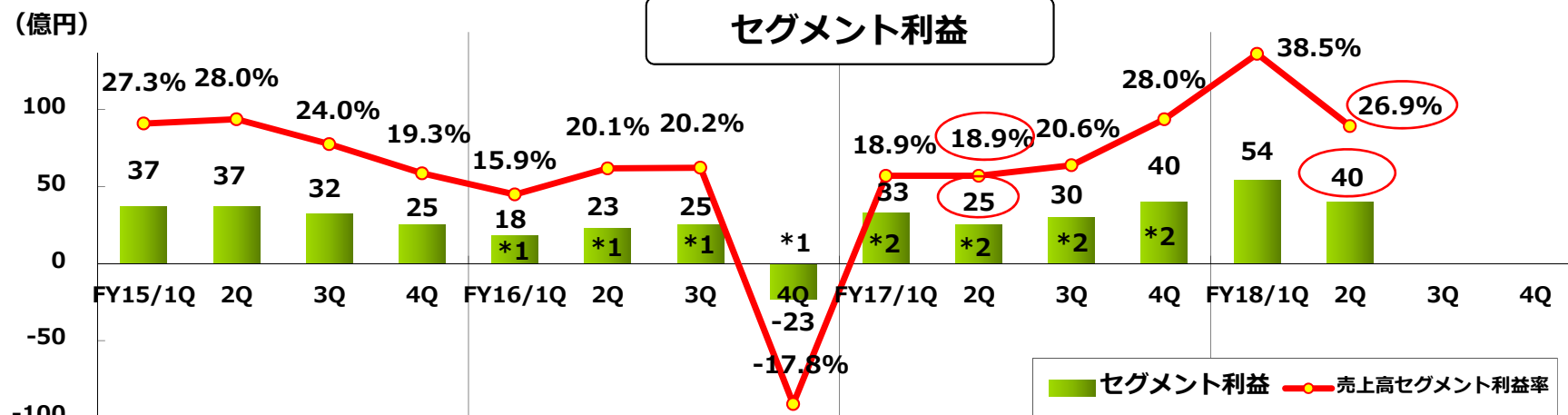
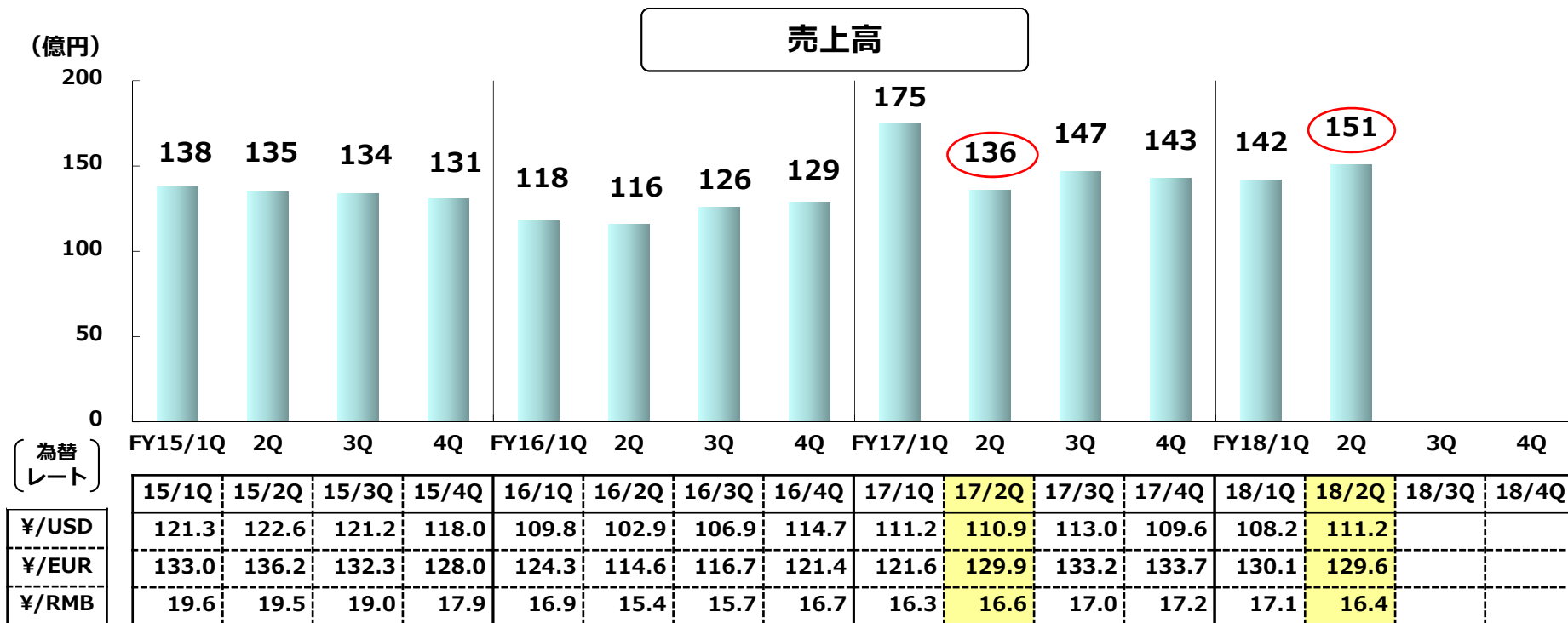
(億円)

FY17/1QよりKMCを含む



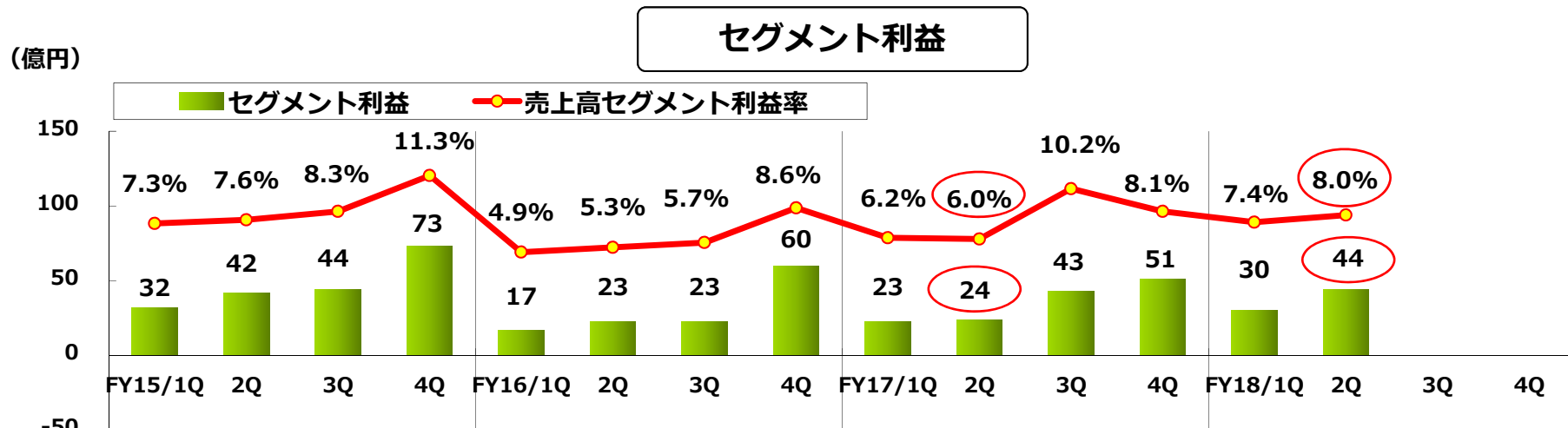
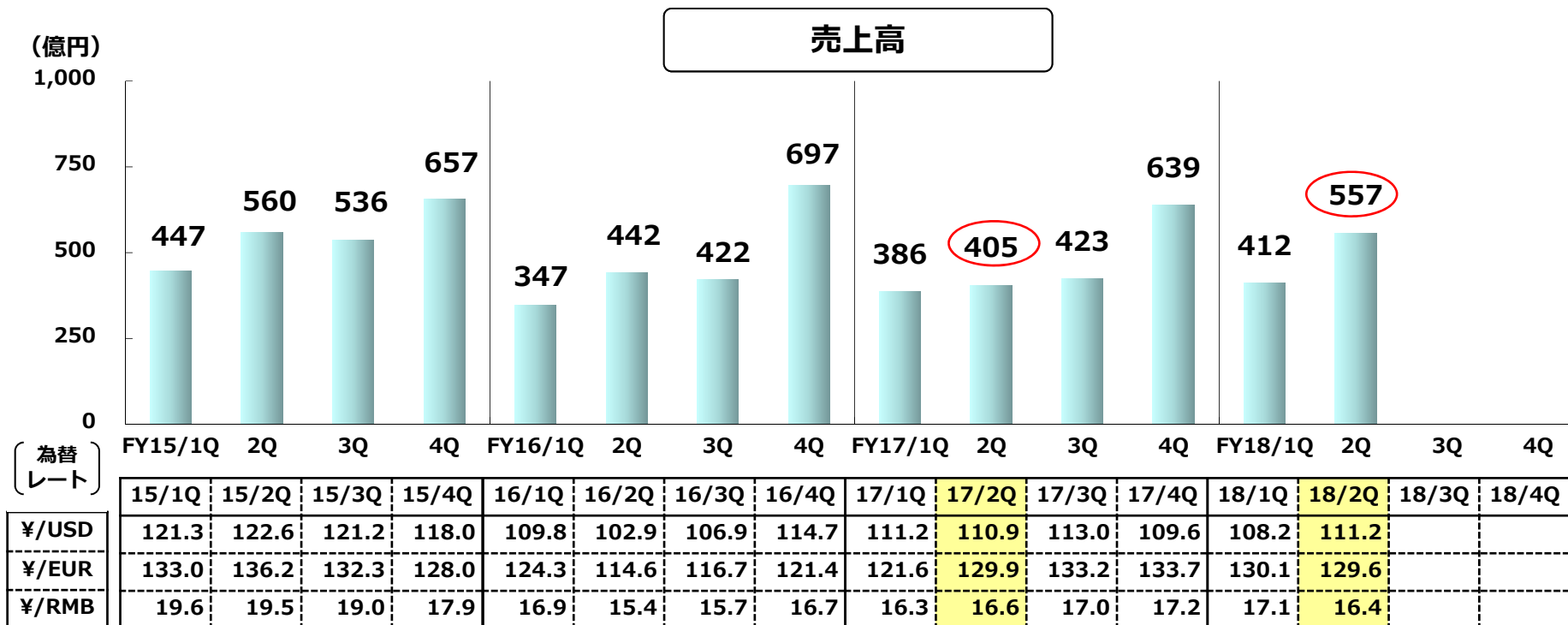
為替レート

	15/1Q	15/2Q	15/3Q	15/4Q	16/1Q	16/2Q	16/3Q	16/4Q	17/1Q	17/2Q	17/3Q	17/4Q	18/1Q	18/2Q	18/3Q	18/4Q
¥/USD	121.3	122.6	121.2	118.0	109.8	102.9	106.9	114.7	111.2	110.9	113.0	109.6	108.2	111.2		
¥/EUR	133.0	136.2	132.3	128.0	124.3	114.6	116.7	121.4	121.6	129.9	133.2	133.7	130.1	129.6		
¥/RMB	19.6	19.5	19.0	17.9	16.9	15.4	15.7	16.7	16.3	16.6	17.0	17.2	17.1	16.4		



\*1 中国の債権に係る引当金の計上を含む (FY16/1Q:▲10億円、2Q:▲5億円、3Q:▲2億円、4Q:▲49億円)

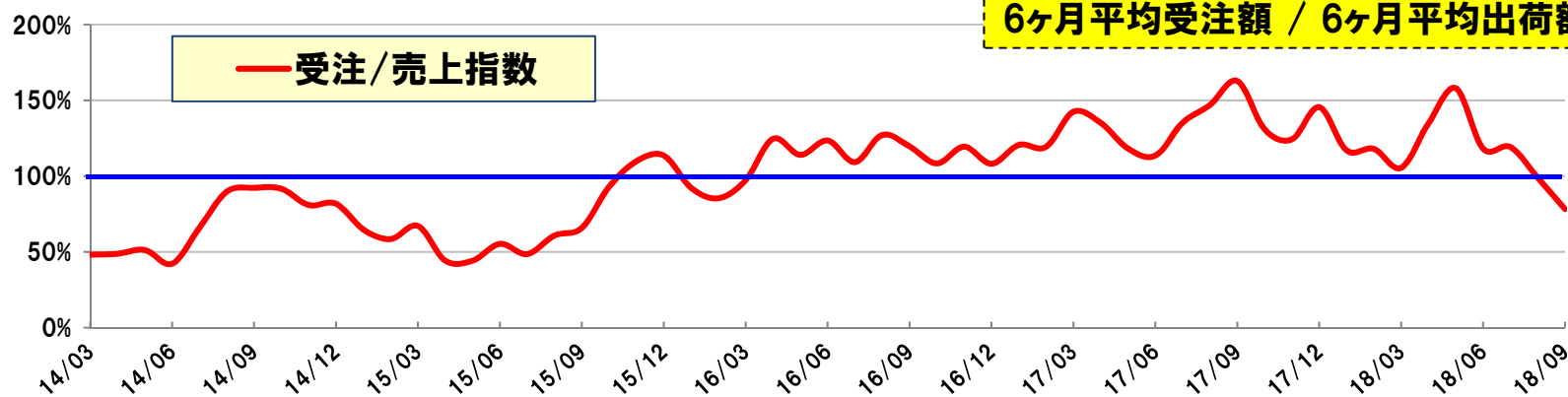
\*2 2017年度の数値は組替表示しております(詳細は3ページを参照)。



2017年度の数値は組替表示しております(詳細は3ページを参照)。

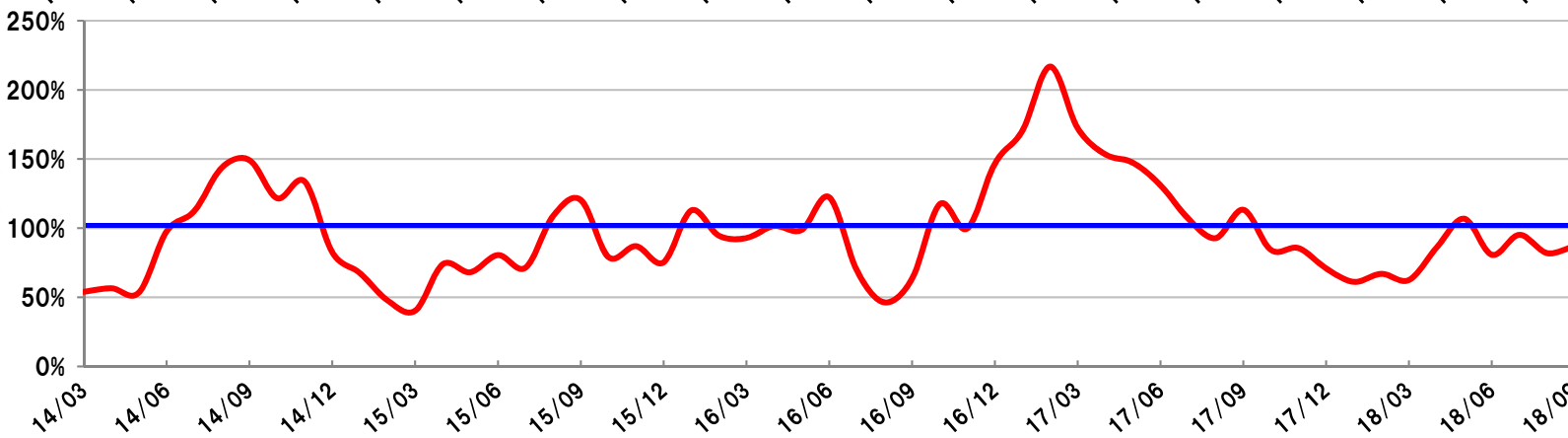
**コマツアメリカ  
（マイニング）**

730E, 830E  
860E  
930E, 960E  
980E



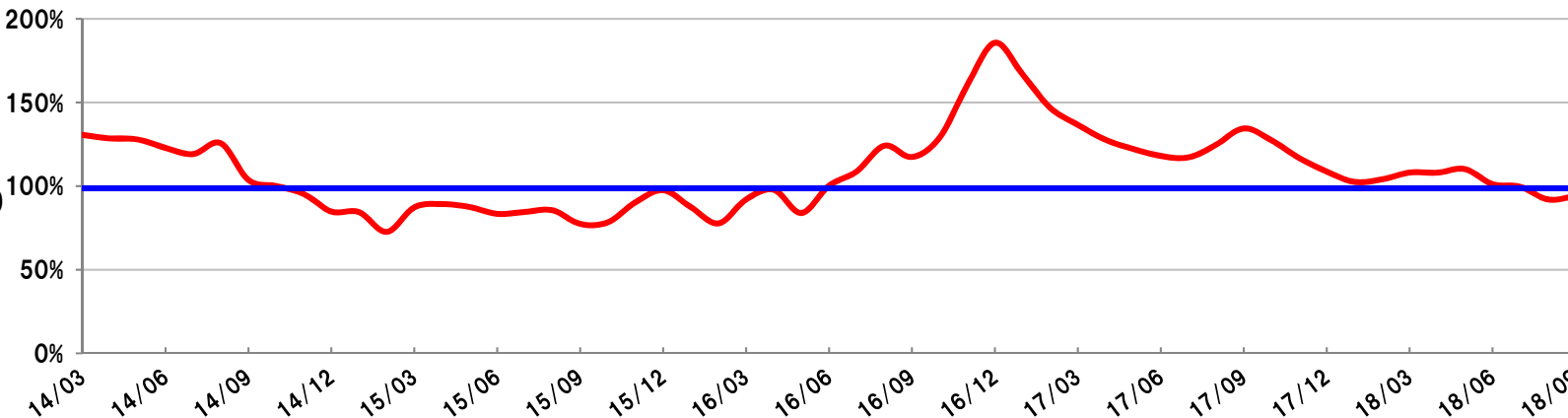
**コマツドイツ  
（マイニング）**

PC3000, PC4000  
PC5500, PC7000  
PC8000

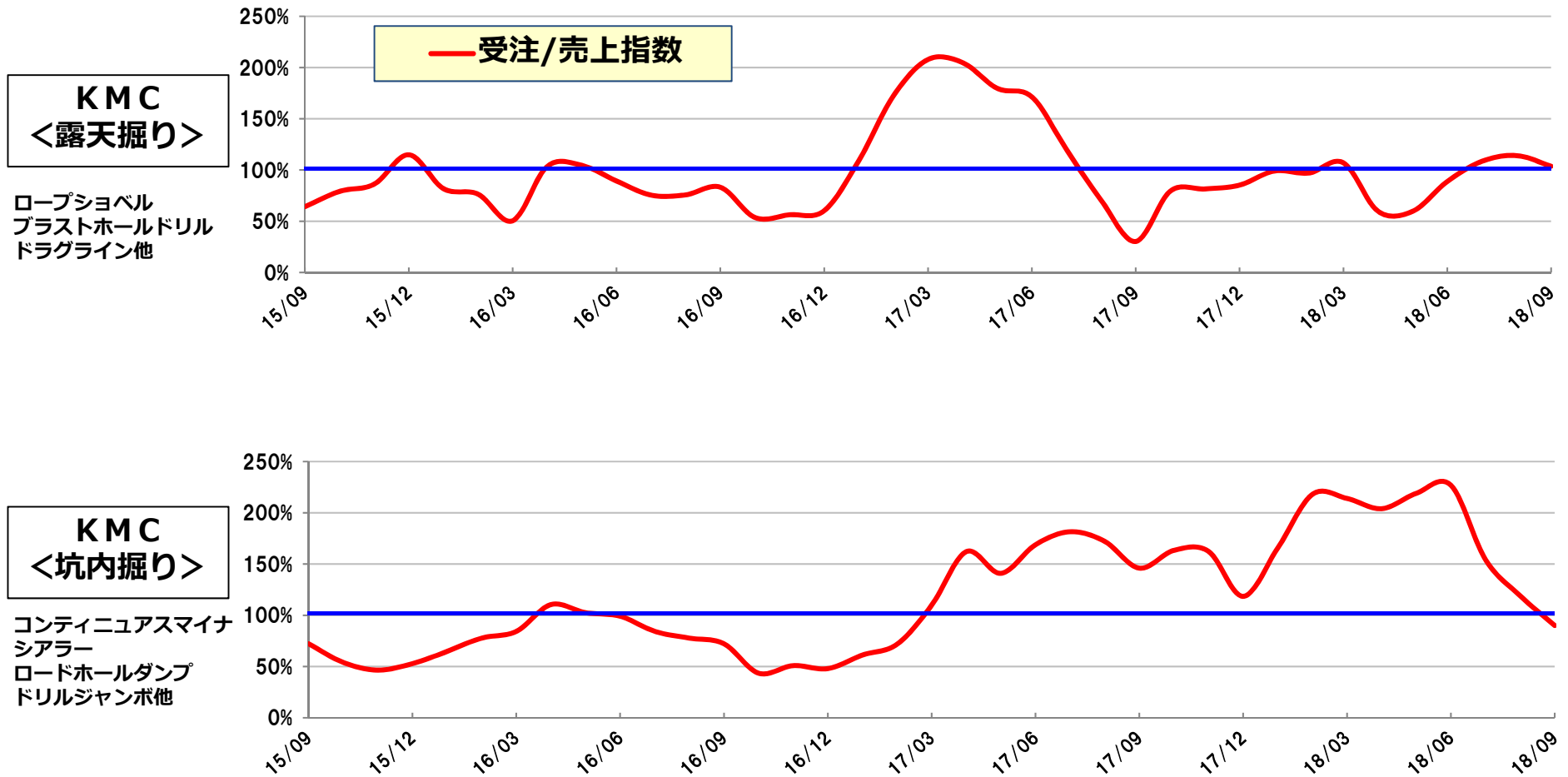


**コマツ単独  
（マイニング）**

HD785, HD1500  
PC2000, PC3000  
PC4000  
WA800 up  
D375A up  
GD825A up

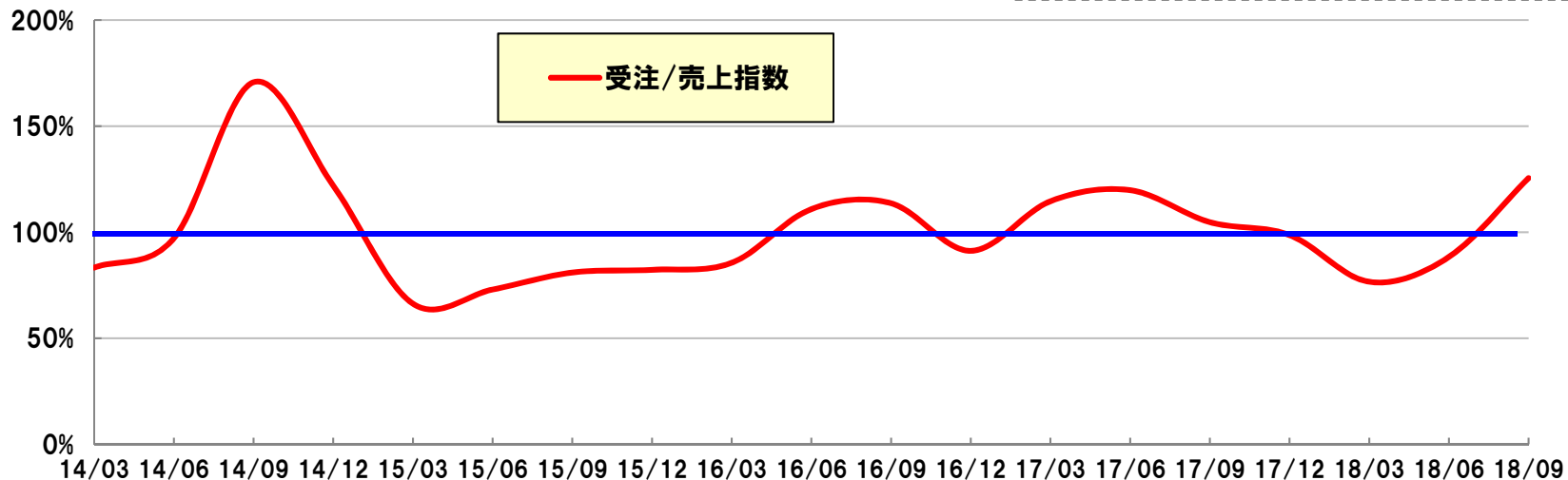


6ヶ月平均受注額 / 6ヶ月平均出荷額

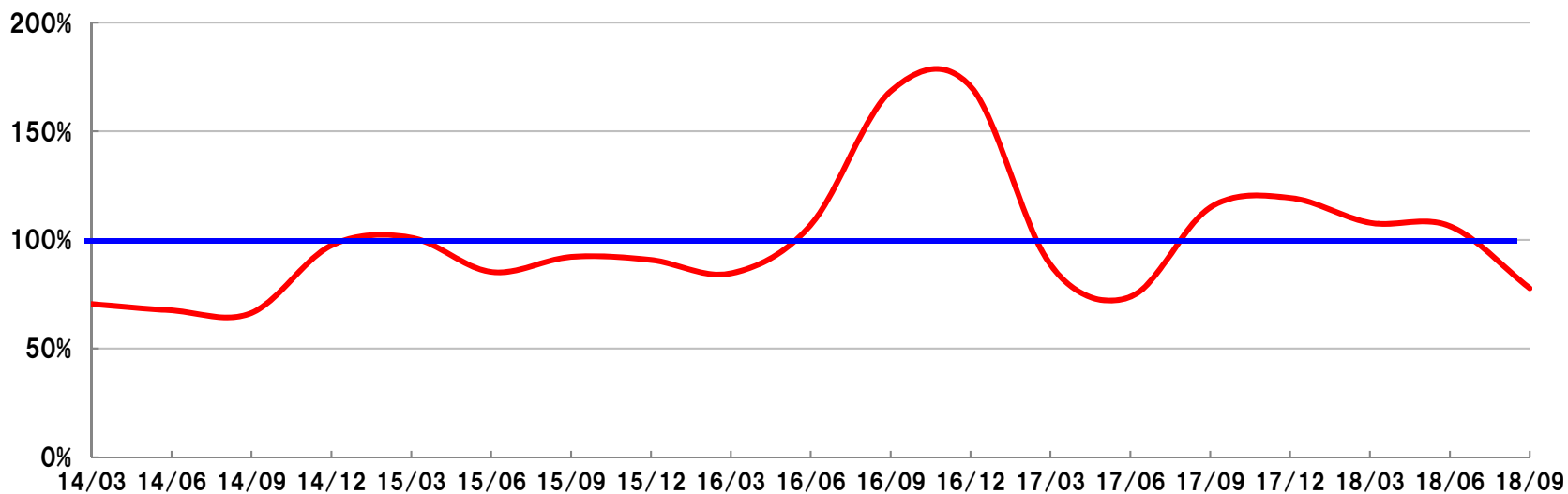


コマツ産機

6ヶ月平均受注額 / 6ヶ月平均出荷額



コマツNTC  
(除くワイヤーソー)





- ・KMCは、約3億ドルを投資し、米国ウィスコンシン州ミルウォーキー市にある本社工場を同市内のより生産に適した沿岸部に移転し、最先端の機能を備えた本社工場に刷新します。
- ・KMCは、州政府ならびにミルウォーキー市と連携しながら順次移転を進め、2022年にすべての移管を完了する予定です。

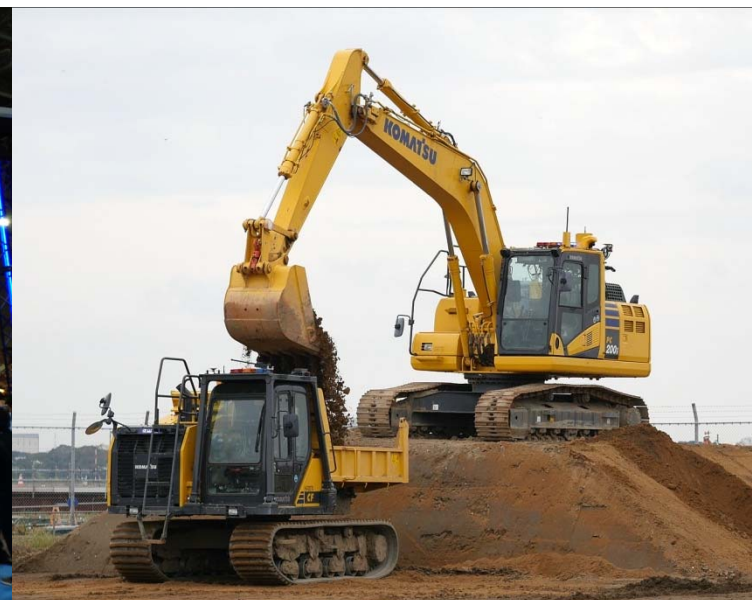


ロープショベル



ブラストホールドリル

・コマツは、2018年10月に、千葉県・幕張メッセで開催された「CEATEC JAPAN 2018」に初出展し、「もっと安全で、もっと生産性の高い、もっとスマートな未来の現場」をテーマに、コマツの「スマートコンストラクション」の新しい挑戦を紹介しました。



完全無人で協調作業を行う  
自律運転油圧ショベルと自律運転クローラダンプ

### 【業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項】

前述の将来の業績予想に関する予想、計画、見通しなどは、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものです。実際の業績は様々な要因の変化により、本資料の予想、計画、見通しとは大きく異なることがありうることをあらかじめご理解ください。そのような要因としては、主要市場の経済状況および製品需要の変動、為替相場の変動、および国内外の各種規制ならびに会計基準・慣行等の変更などが考えられます。